

資料編

1. 杉戸町生涯学習審議会

○杉戸町生涯学習審議会規則

平成14年3月29日

教委規則第8号

(目的)

第1条 この規則は、杉戸町教育委員会の附属機関に関する条例（昭和50年杉戸町条例第5号）の規定に基づき、杉戸町生涯学習審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営について、必要事項を定めることを目的とする。

(職務)

第2条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる基本的事項について審議する。

- (1) 生涯学習に関すること。
- (2) 生涯スポーツに関すること。
- (3) 文化の振興に関すること。

2 審議会は、前項各号の事項について調査し、教育委員会に意見を述べるができる。

(組織)

第3条 審議会は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する委員15人以内をもって組織する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) スポーツ振興の関係者
- (4) 識見を有する者
- (5) 生涯学習、生涯スポーツ又は文化の振興に関心の高い者

(任期)

第4条 審議会の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会の設置)

第7条 審議会に専門部会を置くことができる。

(意見の聴取等)

第8条 審議会は、必要があると認めるときは、関係者に対し出席を求めて、意見若しくは説明を聞き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 審議会の庶務は、教育委員会社会教育課において処理する。

(委任)

第10条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会議に諮って会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

(任期)

2 平成16年3月31日以前に委嘱される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、同日までとする。

(杉戸町スポーツ振興審議会規則の廃止)

3 杉戸町スポーツ振興審議会規則（昭和52年杉戸町教委規則第3号）は、廃止す

る。

(杉戸町スポーツ振興審議会規則の廃止による経過措置)

- 4 この規則による廃止前の杉戸町スポーツ振興審議会規則第4条の規定により委嘱された委員の任期は、同規則第5条第1項の規定にかかわらず、平成14年3月31日までとする。

(杉戸町公民館運営審議会規則の廃止)

- 5 杉戸町公民館運営審議会規則(昭和55年杉戸町教委規則第3号)は、廃止する。

附 則 (令和3年2月1日教委規則第1号)

この規則は、公布の日から施行する。

○委員名簿

(任期 令和6年9月1日～令和8年8月31日)

No.	選出区分	氏名	所属等	備考
1	学校教育関係者 (1号委員)	小山 裕之	杉戸町小・中学校校長会	
2		田口 剛	町内高等学校関係者	
3	社会教育関係者 (2号委員)	五十嵐 貴博	杉戸町PTA連合会	
4		高瀬 信子	杉戸町美術家協会	
5	スポーツ振興関係者 (3号委員)	浅井 宰	杉戸町スポーツ協会	
6		大塚 国夫	杉戸町スポーツ少年団	
7		齊田 壯市	NPO法人 杉戸町総合型地域スポーツクラブ すぎスポ	
8		大塚 信英	杉戸町スポーツ推進委員連絡協議会	
9	識見を有する者 (4号委員)	寺田 竹雄	学識経験者	会長
10		青木 光一	学識経験者	副会長
11		根本 伸	学識経験者	
12	生涯学習・生涯スポーツ・文化の振興に関心の高い者 (5号委員)	齋藤 伸夫	公募	
13		稲田 惇一	公募	
14		伊藤 馨	公募	
15		岩本 明美	公募	

諮問第1号

杉教社第203号
令和7年12月19日

杉戸町生涯学習審議会
会長 寺田竹雄様

杉戸町教育委員会教育長 伊藤 美由紀

杉戸町生涯学習推進計画（素案）について（諮問）

下記の件について、貴審議会の意見を求めたいので、杉戸町生涯学習審議会規則（平成14年杉戸町教育委員会規則第8号）第2条の規定に基づき御審議いただきたく諮問いたします。

記

杉戸町生涯学習推進計画（素案）

令和8年3月16日

杉戸町教育委員会
教育長 伊藤 美由紀 様

杉戸町生涯学習審議会
会長 寺田 竹雄

杉戸町生涯学習推進計画（素案）について（答申）

令和7年12月19日付杉教社第203号により諮問のあった「杉戸町生涯学習推進計画（素案）」について、本審議会は慎重に審議を重ねてまいりましたが、その結果、本案のとおり策定することが適当であると認め、ここに答申します。

記

【答申にあたっての意見】

本計画は、前計画策定から15年が経過し、社会構造が変化する中で、これからの杉戸町の生涯学習が進むべき指針を明確に示したものである。本審議会として、特に以下の点を高く評価するとともに、今後の着実な推進を期待するものである。

1. 客観的指標に基づく施策展開

住民アンケートの結果を緻密に分析し、特に働く世代（30代～50代）の学習参加率の低下、いわゆる「U字型課題」を正面から捉えた。この課題に対して、デジタル技術の活用や、多忙な世代のニーズに即した柔軟な学習機会の提供など、実態に即した「切れ目のない」施策を構築したことは、本計画の実効性を担保する上で意義深い。

2. 「オールすぎと」による持続可能な連携体制の構築

行政のみならず、学校、NPO、企業、各種団体、そして指定管理者が、それぞれの専門性と活力を最大限に活かして「まちの力」を育む「連携・協働」の推進体制を明文化した。このことは、多様化する町民ニーズに応えるための現実的なアプローチである。埼玉県生涯学習推進指針の理念を町の具体策へと昇華させ、地域資源を有機的に結びつけた点は、杉戸町の教育力をさらに高めるための

基盤となるものである。

3. 学びが地域を創る「好循環」の実現と着実な進行管理

個人の学びを自己完結させないため、町や地域に身近な各施設において「学びたい人と地域人材とを結ぶ橋渡し」を強化する。これにより、学びの成果を地域活動や社会貢献へと繋げる「学びの好循環」を基本目標の中核に据えたことは、持続可能な地域社会づくりに直結するものである。また、PDCAサイクルの導入や具体的な成果指標（KPI）の設定により、本計画について不断の見直しを前提とした継続的な指針として位置づけたことは、各施策のたゆまぬ推進と、本町における生涯学習のさらなる充実に向けた強いメッセージとなる。

今後は、本計画の基本理念である「いつでもどこでも、自分らしく学び、広がる学びの輪が、まちの力となる、いきいきと輝く杉戸」の実現に向け、全庁一丸となって取り組まれることを強く望むものである。

2. 杉戸町生涯学習推進計画検討部会

○委員名簿

No.	氏名	選出団体等
1	寺田 竹雄	杉戸町生涯学習審議会
2	青木 光一	杉戸町生涯学習審議会
3	大塚 信英	杉戸町スポーツ推進委員連絡協議会
4	正司 顯好	杉戸町図書館協議会
5	稲毛 保典	杉戸町小中学校長会
6	瀧ヶ崎 隆司	日本工業大学
7	羽田 良治	すぎと町民大学運営委員会

3. 計画の策定経過

開催日等	会議等	主な内容
令和6年 5月22日	令和6年度 第1回杉戸町生涯学習審議会	次期生涯学習推進計画の策定準備について
7月23日	令和6年度 第2回杉戸町生涯学習審議会	次期生涯学習推進計画の策定に係るアンケート調査の実施について
9月3日	杉戸町生涯学習意識調査	18歳以上の町民2,000名を対象
令和7年 4月1日	杉戸町生涯学習推進計画検討部会 委員推薦依頼	生涯学習推進関係機関等へ委員の推薦を依頼
7月9日	令和7年度 第1回杉戸町生涯学習審議会	次期生涯学習推進計画の策定準備について
8月26日	第1回杉戸町生涯学習推進計画 検討部会	次期杉戸町生涯学習推進計画 第1部、第2部の検討について
10月28日	第2回杉戸町生涯学習推進計画 検討部会	杉戸町生涯学習推進計画第3部の 検討について
11月19日	令和7年度 第2回杉戸町生涯学習審議会	計画書(案)の構成について
12月10日	第3回杉戸町生涯学習推進計画 検討部会	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内照会及び第2回杉戸町生涯学習審議会の結果報告と対応について ・「杉戸町生涯学習推進計画(素案)」の最終確認について
12月19日	令和7年度 第3回杉戸町生涯学習審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・杉戸町生涯学習推進計画(素案)について ・杉戸町生涯学習推進計画(素案)の諮問について
令和8年 3月16日	令和7年度 第4回杉戸町生涯学習審議会	杉戸町生涯学習推進計画(素案)の 答申について
3月17日	令和8年 第4回杉戸町教育委員会定例会	杉戸町生涯学習推進計画(原案)に ついて

4. 杉戸町生涯学習意識調査 結果報告書

資料2

はじめに

このたびは、「杉戸町生涯学習意識調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。

杉戸町では、町民一人ひとりの生涯にわたる学習を総合的かつ計画的に推進するため、この度、新たな生涯学習推進計画（計画期間：令和8年度～令和17年度）を策定する運びとなりました。本調査は、この新たな計画策定の基礎資料を得ることを目的として実施いたしました。

本町におきましては、前計画が平成22年度をもって計画期間の満了を迎えて以来、新たな計画が策定されない期間がございましたが、社会情勢がめまぐるしく変化する現代において、町民が主体的に学び続け、その成果を地域社会で活かすことのできる環境づくりの重要性はますます高まっております。

今回の調査では、町民の皆様の学習への関心、参加状況、今後の学習意向や課題、そして生涯学習推進に町として取り組むべきことなどについて、幅広くご意見を伺いました。実施にあたっては、町内在住の満18歳以上の男女2,000名を住民基本台帳より無作為抽出し、令和6年9月上旬から9月30日にかけてアンケート調査を行いました。

ご多忙にもかかわらず、本調査の趣旨をご理解いただき、貴重なご意見、ご回答をお寄せいただきました多くの町民の皆様へ、心より厚く御礼申し上げます。また、本調査の実施にご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

この報告書は、お寄せいただいた貴重なご意見を集計・分析し、とりまとめたものでございます。本報告書を、今後の杉戸町の「新たな生涯学習推進計画」の策定及び生涯学習施策を推進する上で有効に活用し、町民一人ひとりの豊かな学びと、輝きに満ちた地域社会の実現に繋げてまいります。

次期杉戸町生涯学習推進計画の策定に伴う 杉戸町生涯学習意識調査 結果報告書

令和7年7月
杉戸町教育委員会

令和7年7月
杉戸町教育委員会

第1章 調査の概要

1. 調査目的

杉戸町では、町民一人ひとりの生涯にわたる学習活動を総合的かつ計画的に推進するため、次期「(仮称)杉戸町生涯学習推進計画」(以下「次期計画」という。)の策定を進めております。本調査は、この次期計画の策定にあたり、町民の皆様の生涯学習への関わりや意識、ニーズ等の実態を的確に把握し、計画内容に反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施いたしました。

2. 調査設計

(1) 調査対象

対象者：杉戸町内に在住する18歳以上の男女

対象者数：2,000人

抽出方法：無作為抽出

(2) 調査期間

基準日：令和6年9月1日

実施期間：令和6年9月上旬～令和6年9月30日(回答締め切り)

(3) 調査方法

配布・回収方法：調査票を郵送で配布し、返信用封筒による郵送回収、または指定されたURL・二次元コードからのインターネット(WEB)回答を併用して実施しました。

回答形式：無記名方式とし、回答結果は統計的に処理され、個人情報が入り込まないよう配慮しました。

目次

第1章 調査の概要	P.1
1. 調査目的	P.1
2. 調査設計	P.1
(1) 調査対象	P.1
(2) 調査期間	P.1
(3) 調査方法	P.1
(4) 主な調査項目	P.2
3. 回収結果	P.2
第2章 調査結果	P.4
1. 回答者の属性	P.4
(1) 年齢構成(問1,2より)	P.4
(2) 居住地区(問1,3より)	P.5
2. 生涯学習活動への参加状況(問1)	P.6
3. 生涯学習活動の形態(問2-2)	P.8
4. 生涯学習活動を行う理由(問3)	P.10
5. 生涯学習活動を始めたきっかけ(問4)	P.12
6. 生涯学習活動を行っていない理由(問5)	P.14
7. 生涯学習活動に関する情報の入手方法(問6)	P.16
8. 生涯学習活動に関して知りたい情報(問7)	P.18
9. 生涯学習活動で得た知識や技能の活用状況(問8)	P.20
10. 今後の活動参加意向(及び関連する障壁等)(問9)	P.22
11. 関心のある学習テーマ(問10)	P.24
12. 町が生涯学習推進のために力を入れるべきこと(問11)	P.26
第3章 まとめと今後の課題	P.29
1. 調査結果の概要	P.29
2. 杉戸町の生涯学習の現状(特徴・強み)と課題	P.31
3. 計画策定に向けた提言	P.33
おわりに	P.34
巻末資料	P.37
1. 杉戸町生涯学習意識調査アンケート調査票(写し)	P.39
2. 各設問における自由記述の分析結果概要	P.48
(1) 問1 活動内容について	P.48
(2) 問2-2 活動形態(その他)について	P.49
(3) 問3 活動理由(その他)について	P.50
(4) 問4 活動のきっかけ(その他)について	P.51
(5) 問5 活動していない理由(その他)について	P.52
(6) 問6 情報入手手段(その他)について	P.53
(7) 問7 知りたい情報(その他)について	P.54
(8) 問8 学習成果の活用(その他)について	P.55
(9) 問9 今後の活動意向(その他)について	P.56
(10) 問10 関心のある学習テーマ(その他)について	P.57
(11) 問11 町が力を入れるべきこと(その他)について	P.58

第2章 調査結果

1. 回答者の属性

本アンケート調査に回答いただいた617名の属性は、以下の通りです。

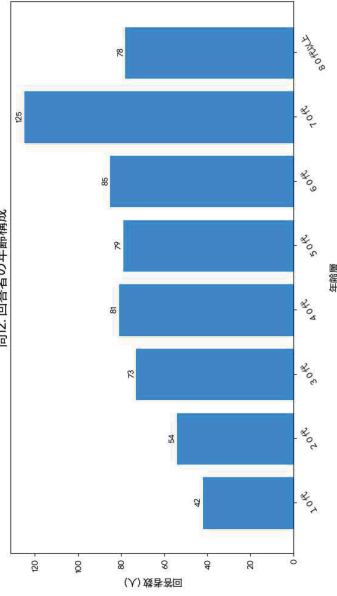
(1) 年齢構成 (問1.2より)

回答者の年齢構成は、70代が20.3%と最も多く、次いで60代 (13.8%)、40代 (13.1%)、50代 (12.8%) の順となっています。

年齢層	回答者数 (人)	構成率 (%)
10代	42	6.8
20代	54	8.8
30代	73	11.8
40代	81	13.1
50代	79	12.8
60代	85	13.8
70代	125	20.3
80代以上	78	12.6
合計	617	100

(注：構成率は小数点第2位を四捨五入)

問12. 回答者の年齢構成



(4) 主な調査項目

本調査では次期計画策定の参考とするため、主に以下の項目についてお尋ねしました。

- (問1) 生涯学習活動への参加状況
- (問2) 生涯学習活動を行っている地域及び活動の形態
- (問3) 生涯学習活動を行う理由
- (問4) 生涯学習活動を始めたきっかけ
- (問5) 生涯学習活動を行っていない理由
- (問6) 生涯学習活動に関する情報の入手方法
- (問7) 生涯学習活動に関して知りたい情報
- (問8) 生涯学習活動で得た知識や技能の活用状況
- (問9) 学習成果を活かした今後の活動参加意向 (及び関連する障壁等)
- (問10) 関心のある学習テーマ
- (問11) 町が生涯学習推進のために力を入れるべきこと

※あわせて、回答者の属性として年齢 (問1.2)、お住まいの地区 (問1.3) などについてもお尋ねしました。

3. 回収結果

- 配布数: 2,000人
 - 回収数: 617件
 - 有効回収数: 617件
 - 回収率: 30.9% (小数点第2位を四捨五入)
- (注：回収された調査票はすべて有効なものとして扱いました。)

2. 生涯学習活動への参加状況 (問1)

1. 設問内容

問1. この1年間くらいの間に「生涯学習活動」を行っていますか。(単数回答)

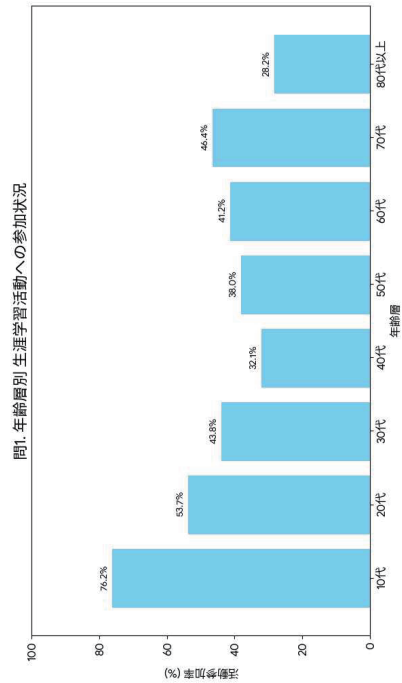
2. 回答状況 (年齢別)

年齢層	回答総数	1. している	2. していない	3. しているが、不満がある	参加率計 (1+3)	うち不満がある割合 (3 / (1+3))
10代	42	32 (76.2%)	10 (23.8%)	0 (0.0%)	76.20%	0.00%
20代	54	27 (50.0%)	25 (46.3%)	2 (3.7%)	53.70%	6.90%
30代	73	31 (42.5%)	41 (56.2%)	1 (1.4%)	43.80%	3.10%
40代	81	24 (29.6%)	55 (67.9%)	2 (2.5%)	32.10%	7.70%
50代	79	29 (36.7%)	49 (62.0%)	1 (1.3%)	38.00%	3.30%
60代	85	35 (41.2%)	50 (58.8%)	0 (0.0%)	41.20%	0.00%
70代	125	55 (44.0%)	67 (53.6%)	3 (2.4%)	46.40%	5.20%
80代以上	78	22 (28.2%)	56 (71.8%)	0 (0.0%)	28.20%	0.00%

(注) 参加率計は「1. している」と「3. しているが、不満がある」の合計。

うち不満がある割合は、生涯学習活動を行っている人のうち、不満を感じている人の割合です。

3. 視覚的表現 (グラフ)



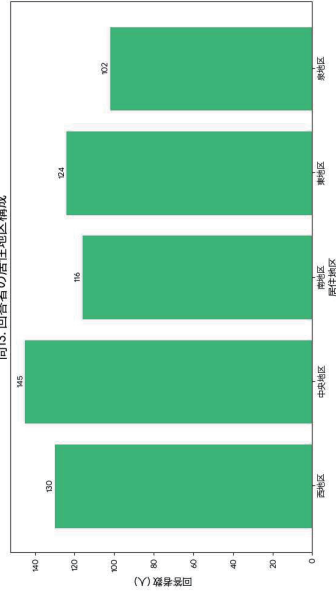
(2) 居住地区 (問13より)

回答者の居住地区構成は、「中央地区」が23.5%と最も多く、次いで「西地区」(21.1%)、「東地区」(20.1%)の順でした。5つの地区からの回答割合は比較的均等に近い状況となっています。

居住地区	回答者数 (人)	構成率 (%)
西地区	130	21.1
中央地区	145	23.5
南地区	116	18.8
東地区	124	20.1
北地区	102	16.5
合計	617	100

(注) 構成率は小数点第2位を四捨五入

問13. 回答者の居住地区構成



3. 生涯学習活動の形態 (問2-2)

1. 設問内容

問2-2. それ (生涯学習活動) は、どのような形態で行っていますか。 (複数回答可)
 ※この設問は、問1で「生涯学習活動をしている」または「しているが、不満がある」と回答した方が対象です。

2. 回答状況 (年齢別・活動形態別選択率)

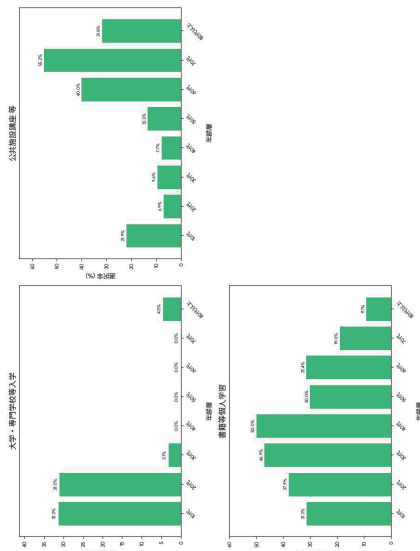
(各年齢層の活動者数を分母として、各活動形態を選択した人の割合を示しています)

活動形態	10代 (32人)	20代 (29人)	30代 (32人)	40代 (26人)	50代 (30人)	60代 (35人)	70代 (58人)	80代以上 (22人)
1. 公共施設講座等	21.90%	6.90%	9.40%	7.70%	13.30%	40.00%	55.20%	31.80%
2. 学校公開講座等	15.60%	3.40%	6.30%	15.40%	0.00%	0.00%	1.70%	0.00%
3. 大学・専門学校等入学	31.30%	31.00%	3.10%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	4.50%
4. 民間講座・クラブ等	12.50%	3.40%	12.50%	7.70%	33.30%	22.90%	22.40%	4.50%
5. グループ・サークル	15.60%	24.10%	50.00%	30.80%	20.00%	20.00%	44.80%	54.50%
6. PC・ネット個人学習	28.10%	24.10%	37.50%	42.30%	26.70%	17.10%	5.20%	4.50%
7. 書籍等個人学習	31.30%	37.90%	46.90%	50.00%	30.00%	31.40%	19.00%	9.10%
8. 勉強研修等	3.10%	10.30%	15.60%	19.20%	10.00%	5.70%	1.70%	4.50%

(注) 本字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。各活動者数は問7の結果より算出)

3. 視覚的表現 (グラフ)

問2-2. 主な学習形態の年齢別選択率 (パネルグラフ)



4. 分析結果と考察 (ポイント) :

- ・ **10代の高い参加率:**
10代の参加率は76.2%と全世代で最も高く、学校教育等との関連が背景にあると考えられます。
- ・ **働く世代の参加率低下:**
働く・子育て世代にあたる30代(43.8%)から50代(38.0%)にかけて参加率は低下し、特に40代(32.1%)で最も低くなります。仕事や家庭による時間的制約が主な要因と推察されます。
- ・ **高齢者層の参加率回復:**
60代(41.2%)、70代(46.4%)では参加率が回復します。退職等を機に、健康や生きがい、社会とのつながりへの関心が高まることを背景にあると考えられます。
- ・ **80代以上の参加率再低下:**
80代以上では参加率が28.2%に再び低下し、健康上の理由や外出機会の減少が影響していると考えられます。
- ・ **活動者の不満と課題:**
活動者中の「不満あり」層は20代(6.9%)、40代(7.7%)などで見られ、学習内容や環境等の質の向上が課題であることを示唆しています。
- ・ **自由記述から見る活動内容:**
活動「している」層が具体的にどのような活動に取り組んでいるかを自由記述で尋ねたところ (詳細は添付資料p48参照)、スポーツ活動ではゴルフやテニス、体操など、文化的な活動では読書や音楽、書道、語学学習など、非常に多岐にわたる活動が挙げられました。また、スキルアップを目的とした「資格取得」に関する記述も多く見られ、町民の多様な学習ニーズが確認できました。

杉戸町の生涯学習推進への示唆

- ・ **多様なニーズへの対応: ~学びの機会を、すべての人へ~**
町民のライフステージや年齢層ごとのニーズに応じた、多様な学習機会の提供と、それらの情報が的確に届くような効果的な情報発信が求められます。
- ・ **活動促進層への支援強化: ~働く・子育て世代をサポート~**
特に活動率が低い30代~50代の層に対し、時間や場所の制約を受けにくい学習方法 (オンライン、短時間プログラム等) や、関心を惹く魅力的な学習内容の提供といった支援策の検討が必要とされます。
- ・ **高齢者の学習継続支援: ~生涯アクティブに、安心して学ぶ~**
高齢者の活動的な学習への継続支援と共に、80代以上の層が安心して参加できるような配慮 (例: 送迎支援、健康に留意したプログラム、身近な場所での開催など) も視野に入れる必要があります。
- ・ **学習満足度の向上: ~より質の高い学びの実現~**
活動者の満足度を高めるため、学習内容・指導者・施設環境など、様々な側面からの質的向上に向けた取組も重要とされます。

4.分析結果と考察（ポイント）：

- **若年層（10代・20代）の傾向：**
「大学等入学」や、書籍・PC等での「個人学習」といった自己啓発型の形態が高い割合を占めます。
- **働く世代（30代・50代）の傾向：**
「書籍等個人学習」は依然として高いものの、30代は「グループ・サークル」（50.0%）、40代は「PC・ネット個人学習」（42.3%）、50代は「民間講座・クラブ等」（33.3%）が最多となるなど、年代ごとの特徴が見られます。「職場研修」も一定の役割を担っています。
- **高齢者層（60代以上の傾向）：**
「公共施設講座等」が主要な形態となり、特に70代（55.2%）でピークを迎えます。「グループ・サークル」も再び活発化し、特に80代以上（54.5%）で最多となります。一方で「個人学習」の割合は低下する傾向にあります。
- **自由記述より：**
活動形態に関する自由記述（詳細は巻末資料p49参照）からは、既存の選択肢を補足する具体的な活動場所（自宅、職場等）や、特定の団体組織への所属、資格取得のための研修参加、オンラインでの情報発信といった多様な活動の文脈や形態がうかがえた。

4. 生涯学習活動を行う理由（問3）

1. 設問内容 問3. 生涯学習活動を行う理由は何ですか。（複数選択可）
※この設問は、問1で「生涯学習活動をしている」または「しているが、不満がある」と回答した方が対象です。

2. 回答状況（年齢別・理由別選択率）

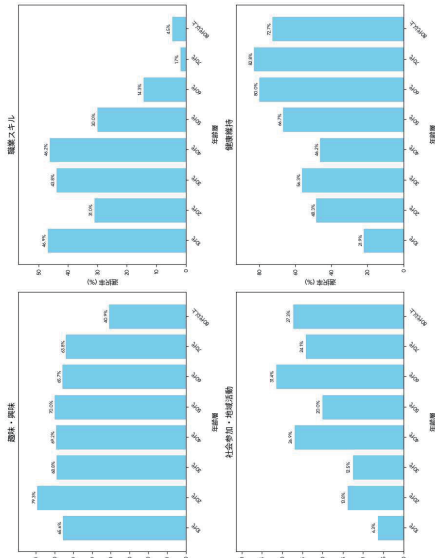
（各年齢層の活動者数を分母として、各理由を選択した人の割合を示しています）

活動理由	10代 (N=32)	20代 (N=29)	30代 (N=32)	40代 (N=26)	50代 (N=30)	60代 (N=35)	70代 (N=58)	80代以上 (N=22)
1. 趣味や興味を 広げたい	65.60%	79.30%	68.80%	69.20%	70.00%	65.70%	63.80%	40.90%
2. 職業スキルを 向上させたい	46.90%	31.00%	43.80%	46.20%	30.00%	14.30%	1.70%	4.50%
3. 社会参加や地域活 動に役立てたい	6.30%	13.80%	12.50%	26.90%	20.00%	31.40%	24.10%	27.30%
4. 健康や心身の調子 を保つ	21.90%	48.30%	56.30%	46.20%	66.70%	80.00%	82.80%	72.70%

（注：本表は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。Nは各年齢層の活動者数（問1の結果より算出。）

3. 視覚的表現（グラフ）

問3. 主な学習理由の年齢層別選択率（バネルグラフ）



杉戸町の生涯学習推進への示唆

- **世代別ニーズへの対応：**～最適な学びを各世代へ～
若年層は自己啓発型、働く世代は多様なニーズ（キャリア、趣味、仲間）に応じた柔軟な機会、高齢者層は地域での交流・健康・生きがい中心の機会を提供します。
- **情報提供の最適化：**～届く情報を、求める人へ～
各世代が利用するチャネルを考慮し、必要とされる情報が的確に届くよう情報発信の方法を改善・多様化します。
- **働く世代の支援強化：**～学びやすさで活動促進～
時間や場所の制約に対応したオンライン講座、短時間で学べるプログラム、地域サークルとの連携などを推進し、学習への参加しやすさを向上させます。
- **高齢者への支援充実：**～安心と生きがいを支える学び～
公共施設における講座の質・量を確保し、サークル活動支援を継続します。また、PC・ネット学習の利用率の低さを踏まえ、デジタルデバイス解消に向けたICT学習機会の提供も重要です。
- **多様な主体との連携強化：**～地域全体で学びを創造～
民間事業者や地域団体との連携を強化し、行政だけでなく地域全体で学習機会を提供できる体制を構築します。

4. 分析結果と考察（ポイント）：

- **全世代共通の主要動機：**
「趣味や趣味の拡大」は全世代共通の主要動機であり、10代から70代まで60%以上が選択しています。これは生涯学習の根源的な動機と見え、80代以上でも高いニーズが見られます。
- **働く世代のスキルアップニーズ：**
「職業スキル向上」は、10代から50代までの若年・働く世代で高いニーズがあり、特に10代・30代・40代では4割を超えます。キャリア形成等の必要性がうかがえ、60代以降は急減します。
- **中高年層からの社会参加意識：**
「社会参加・地域活動」への関心は年代と共に上昇し、40代(26.9%)で2割を超え、60代(31.4%)でピークに達します。退職前後からの地域貢献への意識の高まりが推察されます。
- **高齢者層における健康維持の重要性：**
「健康維持」は年代が上がるにつれて選択率が顕著に高まり、50代(66.7%)以降は最重要の理由となります。特に60代(80.0%)、70代(82.8%)では8割を超え、高齢期の学習と健康が強く結びついていることが示されています。
- **自由記述より：**
活動理由に関する自由記述（詳細は巻末資料p50参照）では、選択肢以外にも、「自己成長のため」「人との関わりを広げるため（家族以外も含む）」「将来への不安軽減」「ホウホウ防止」など、個人の内面的な充実や生活の質の向上、将来への備えに関連する多様な動機が示されました。「資格取得」を具体的な目標とする声も、ここでも確認されました。

杉戸町の生涯学習推進への示唆：

- ・ **普遍的ニーズへの対応：**～「趣味・興味の追求」支援～
全ての世代に「趣味・興味」を広げる多様なプログラムを提供し続けることが基本です。
- ・ **キャリア形成とスキルアップ支援：**～若年・働く世代向け～
若年・働く世代には、キャリアアップやスキル習得に繋がる講座や情報提供を強化し、リカレント教育の視点も取り入れます。
- ・ **社会参加と地域デビュー促進：**～中高年・リタイア準備層向け～
40代以降、特にリタイア層を居る世代には、スムーズな地域デビューや社会参加を促す学びの機会を提供します。
- ・ **健康寿命延伸と生きがいづくり支援：**～高齢者向け～
高齢者には、健康増進プログラムや生きがいづくりに繋がる活動を最重点で提供し、介護予防の観点も重視します。
- ・ **動機軸のプログラム開発と戦略的広報：**～全世代への列挙的アプローチ～
各世代の主要な動機に応じた魅力的な講座設計と、ターゲットを明確にした広報戦略が求められます。

5. 生涯学習活動を始めたきっかけ（問4）

1. 設問内容 問4. 生涯学習活動を行うようになったきっかけは何ですか。（複数回答可）
※この設問の対象者は、問1で「生涯学習活動をしている」または「しているが、不満がある」と回答した方です（今後の設問も同様）。

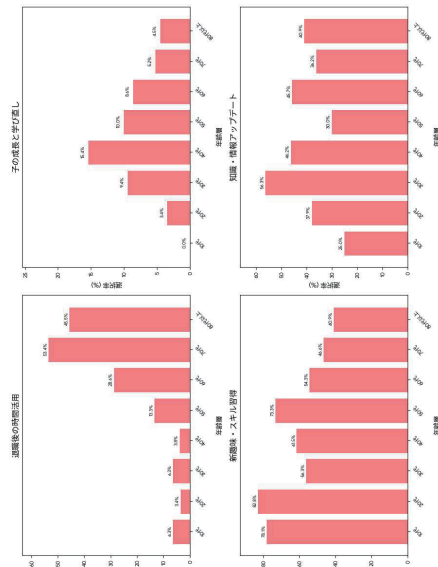
2. 回答状況（年齢別・きっかけ別選択率）（各年齢層の活動者数を分母として、各きっかけを選択した人の割合を示しています）

きっかけ	10代 (N=32)	20代 (N=29)	30代 (N=32)	40代 (N=26)	50代 (N=30)	60代 (N=35)	70代 (N=58)	80代以上 (N=22)
1. 退職後の時間活用	6.30%	3.40%	6.30%	3.80%	13.30%	28.60%	53.40%	45.50%
2. 子の成長と学び直し	0.00%	3.40%	9.40%	15.40%	10.00%	8.60%	5.20%	4.50%
3. 新趣味・スキル習得	78.10%	82.80%	56.30%	61.50%	73.30%	54.30%	46.60%	40.90%
4. 知識・情報アップデート	25.00%	37.90%	56.30%	46.20%	30.00%	45.70%	36.20%	40.90%

(注：太字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。Nは各年齢層の活動者数（問1の結果より算出）。)

3. 視覚的表現（グラフ）

問4. 主な学習のきっかけの年齢別選択率（バネルグラフ）



4. 分析結果と考察（ポイント）：

- **主要なきっかけ**「新しい趣味・スキル習得」：
「新しい趣味・スキル習得」は全世代を通じて主要なきっかけで、特に10代・20代・50代で際立っており、学びの根源的な動機と言えます。
- **働く世代に多い「知識・情報のアップグレード」**：
「知識・情報のアップグレード」は20代から60代でニーズが高く、特に30代（56.3%）でピークに達します。社会変化への対応やキャリア上の必要性が背景にあると考えられます。
- **高齢層のまなきっかけ「退職後の時間活用」**：
「退職後の時間活用」は50代から増加し、70代（53.4%）でピークを迎える高齢層の主要なきっかけで、ライフステージの変化が大きく影響しています。
- **子育て世代に見られる「子の成長と学び直し」**：
「子の成長と学び直し」は子育て世代にあたる20代から50代に見られ、特に40代（15.4%）で高まりますが、選択率は限定的です。
- **自由記述より**：
活動開始の「その他のきっかけ」に関する自由記述（詳細は参考資料p51参照）を見ると、選択院以外にも、健康状態の改善や体力維持といった健康への直接的な配慮、友人・知人からの誘いや新たな出会いといった社会的つながりを求める動機、学生時代からの活動の継続、自己変革への願いなどが、学習を始める重要な後押しとなっていることがうかがえます。仕事に直結する資格取得や副業といった、より具体的なキャリア関連のきっかけも挙げられています。

杉戸町の生涯学習推進への示唆：

- **内容的動機の豊富と機会拡充**：「やってみよう」をカタチに～
「新しい趣味・スキル習得」という普遍的動機に応えるため、多様で魅力的な学習機会への提供を継続・拡充します。
- **ライフステージ転換期の学習支援**：～「きっかけ」をチャンスに～
「退職期」「子育て期」といったライフイベントに合わせた情報提供やプログラム（例：セカンドライフ設計講座、親子向け学習、子育て世代の学び直し支援）を企画・実施します。
- **時代即応型スキルの習得支援**：～「必要性」に応える学びを～
働く世代を中心に高い「知識・情報のアップグレード」ニーズに対応し、デジタルスキル、情報リテラシー、専門知識の更新などに関する学習機会を強化します。
- **特定層へのアプローチと潜在ニーズ喚起**：～「隠れた層」を引き出す～
「子の成長と学び直し」のような特定の層に見られるきっかけや潜在的なニーズに対し、よりきめ細やかな情報提供や機会を創出し、**学習参加を促進します。**

6. 生涯学習活動を行っていない理由（問5）

1. 設問内容 問5. 生涯学習活動を行っていない理由は何ですか。（複数選択可）
※この設問の回答者は、問1で「生涯学習活動をしていない」と回答した方（以下「非活動者」）です。

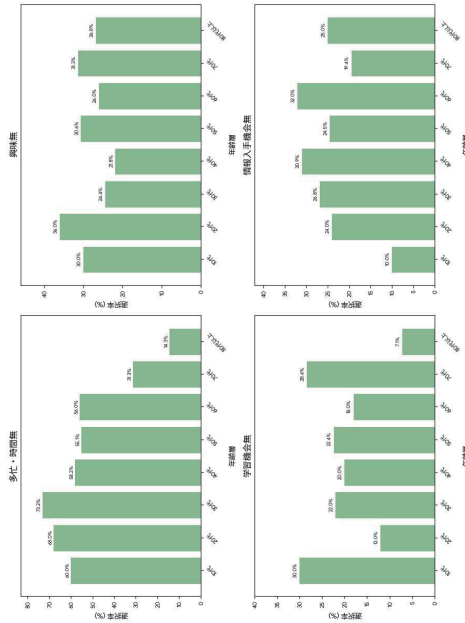
2. 回答状況（年齢別・理由別選択率）（各年齢層の非活動者数を分母として、各理由を選んだ人の割合を示しています。理由の名称を簡略化しています。）

活動していない理由	10代 (N=10)	20代 (N=29)	30代 (N=41)	40代 (N=55)	50代 (N=49)	60代 (N=50)	70代 (N=67)	80代以上 (N=56)
1. 多忙・時間無	60.00%	68.00%	73.20%	58.20%	55.10%	56.00%	31.30%	14.30%
2. 興味無	30.00%	36.00%	24.40%	21.80%	30.60%	26.00%	31.30%	26.80%
3. 学習機会無	30.00%	12.00%	22.00%	20.00%	22.40%	18.00%	28.40%	7.10%
4. 情報入手機会無	10.00%	24.00%	26.80%	30.90%	24.50%	32.00%	19.40%	25.00%

(注：太字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。Nは各年齢層の非活動者数（問1の結果より算出）)

3. 視覚的表現（グラフ）

問5. 主な活動していない理由の年齢層別選択率（パネルグラフ）



7. 生涯学習活動に関する情報の入手方法 (問6)

1. 設問内容 問6. 生涯学習活動に関する情報をどのように得ていますか。(複数回答可)

※この設問の対象者は、アンケートに回答した全町民です。

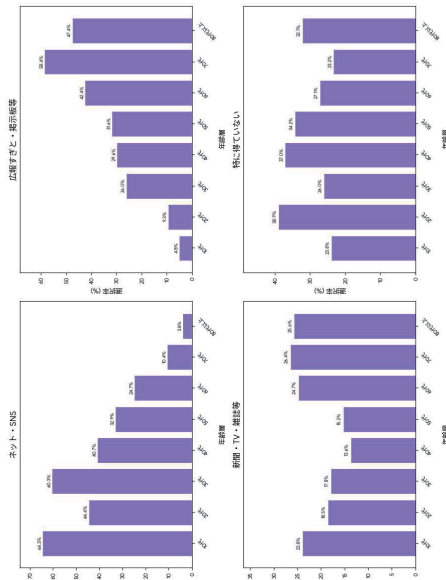
2. 回答状況(年齢別・情報源別選択率) (各年齢層の全回答者数を分母として、各情報源を選択した人の割合を示しています。情報源の名称を簡略化しています。)

情報源	10代 (N=42)	20代 (N=54)	30代 (N=73)	40代 (N=81)	50代 (N=79)	60代 (N=85)	70代 (N=125)	80代以上 (N=78)
1. 新聞・TV・雑誌等	23.80%	18.50%	17.80%	13.60%	15.20%	24.70%	26.40%	25.60%
2. 広報すまじ・掲示版等	4.80%	9.30%	26.00%	29.60%	31.60%	42.40%	59.40%	47.40%
3. 公共施設	2.40%	5.60%	15.10%	7.40%	13.90%	12.90%	20.80%	17.90%
4. ネット・SNS	64.30%	44.40%	60.30%	40.70%	32.90%	24.70%	10.40%	3.80%
5. 駅・商業施設等	2.40%	5.60%	11.00%	9.90%	1.30%	3.50%	3.20%	5.10%
6. 友人・知人	40.50%	29.60%	28.80%	17.30%	25.30%	23.50%	30.40%	20.50%
7. 特に得ていない	23.80%	38.90%	26.00%	37.00%	34.20%	27.10%	23.20%	32.10%

注: 赤字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。Nは各年齢層の全回答者数(問1の結果より算出。)

3. 視覚的表現 (グラフ)

問6. 主な情報源の年齢別選択率 (バネルグラフ)



4. 分析結果と考察 (ポイント)

- **働く世代の最大の障壁「多忙・時間無」:**
働く世代の最大の障壁は「多忙・時間無」であり、10代から60代までの非活動者で高い割合を占め、特に20代、30代で顕著です。この世代の学習参加には時間的制約への配慮が不可欠です。
- **高齢者層の主な非活動理由:**
高齢者層(70代以上)の非活動理由では、「多忙・時間無」が減少し、代わりに「興味無」の割合が比較的高まります。また、「情報入手機会無」も高齢者層の主要な障壁の一つです。
- **全世代に存在する「学習機会無」への配慮:**
「学習機会無」は全世代にわたって見られる理由であり、特に10代と70代でやや高い傾向です。学習ニーズと提供機会のミスマッチや認知不足の可能性を示唆します。
- **情報アクセスの課題:**
「情報入手機会無」は特に40代や60代で高く、働く世代やリタイア期にも情報が十分届いていない可能性を示唆します。
- **自由記述より:**
「その他の活動していない理由」に関する自由記述(詳細は添付資料5の参照)を見ると、選択理由以外で特に多く挙げられたのは、病気や加齢、障がいなどによる健康上・身体的な制約でした。「生涯学習自体を知らなかった」という声や、「自分に合う活動や情報、設備がない」といった機会や内容のミスマッチを指摘する意見、経済的負担を挙げる声も見られました。また、障がいを持つご家族の学習機会に関する保護者の方からの問い合わせもあり、多様な状況への配慮が求められていることがうかがえます。

杉戸町の生涯学習推進への示唆:

- **時間的制約への対応:** ~「スキマ時間」を「学び時間」に~
働く世代向けに、短時間で学べるオンライン講座やオンデマンド型の学習機会の提供を強化し、学習への参加のハードルを下げます。
- **学習意欲の喚起:** ~「やってみたい」がきっかけと見つかる~
高齢者層を中心に、学習への興味・関心を改めて刺激できるよう、多様なテーマ設定の講座や、気軽な体験機会を提供します。
- **学習機会の確保と周知:** ~「学びたい」に応える機会と情報を~
町民ニーズに応じた学習機会を確保し、その情報が誰にでも容易に入手できるような、広報手段の改善や情報チャネルの多様化を図ります。
- **情報アクセスの改善:** ~おなだに届ける、学びの最新情報~
全ての世代に対し、生涯学習に関する情報を分かりやすく、多様な手段で提供し、特に情報が届きにくい層への配慮を強化します。

4. 分析結果と考察（ポイント）：

- **若年層・働く世代の主要チャネル「ネット・SNS」：**
若年層・働く世代では「ネット・SNS」が主要な情報源で、10代・30代では6割を超えます。これらの世代への情報発信は不可欠ですが、50代以降は利用率が低下します。
- **高齢層の主要チャネル「広報者」と「掲示板」：**
高齢層では「広報者」と「掲示板等」が主要な情報源となり、年代と共に利用率が上昇、70代(88.4%)でピークを迎えます。地域密着型の紙媒体の重要性が示されています。
- **マスメディア・口コミの役割：**
「新聞・TV・雑誌等」は全世代で20%前後の補完的な利用が見られます。また、「友人・知人」からの口コミ等は世代を問わず重要な情報伝達ルートであり、特に70代(40.5%)で利用率の高さが目立ちます。
- **情報が届いていない層の存在：**
「特に得ていない」層は、20代・40代・50代で3割を超えるなど、全世代で一定数存在し、情報をいかに届けるかが大きな課題です。
- **公共施設等の限定的な利用：**
「公共施設」や「駅・商業施設等」での情報入手は全体的に低調で、より目に触れやすい工夫が求められます。

- **自由記述より：**
「その他の情報入手手段」に関する自由記述（詳細は巻末資料p53参照）からは、職場や所属団体（スポーツ連盟、専門機関等）からの情報、家族からの勧めといった、より個人的・限定的な情報ネットワークも活用されていることがうかがえました。また、「広報誌でボランティア情報を充実させてほしい」といった具体的な要望や、既存の情報チャネルへの不信感をうかがわせる意見、健康状態や生活時間の制約により情報が届くにくいといった声も少数ながら寄せられました。

杉戸町の生涯学習推進への示唆：

- **情報提供チャネルの権限化と最適化：**～世代特性に応じた、最適な情報ルート～
若年～中年層へはネット・SNSを主軸とし、高齢者層へは広報紙や地域掲示を強化するなど、ターゲットに応じた情報提供チャネルの使い分けが必須です。
- **能動的な情報発信の強化：**～待つ広報から、届ける広報へ～
「特に情報を得ていない」層が一定数存在することを踏まえ、プッシュ型の情報発信や、多様な媒体を活用した積極的な情報提供が求められます。
- **口コミ・地域ネットワークの活用：**～人と人とのつながりを、学びのきっかけに～
友人・知人からの情報も重要な役割を担っているため、地域コミュニティやサークル活動を通じた情報流通の促進も有効です。
- **情報空白地域へのアプローチ：**～情報弱者を生み出さない工夫を～
特に「特に得ていない」割合が高い世代や層に対し、なぜ情報が届いていないのかを分析し、個別の対策を講じる必要があります。

8. 生涯学習活動に関して知りたい情報（問7）

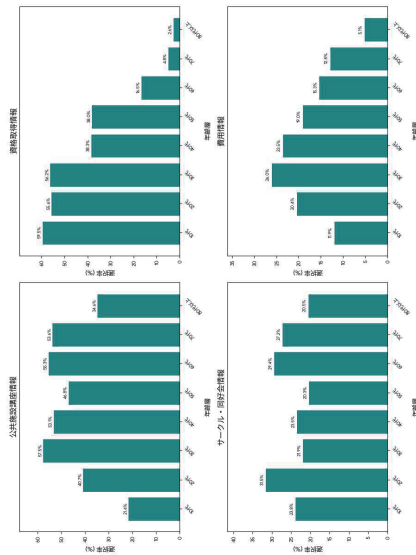
1. 設問内容 問7. 生涯学習活動に関して、どのような情報を知りたいですか。（複数回答可）
※この設問の対象者は、アンケートに回答した全町民です。
2. 回答状況（年齢別・知りたい情報別選択率）（各年齢層の全回答者数を分母として、各情報を選択した人の割合を示しています。情報の重複を簡略化しています。）

	10代 (N=42)	20代 (N=54)	30代 (N=73)	40代 (N=81)	50代 (N=79)	60代 (N=85)	70代 (N=125)	80代以上 (N=78)
知りたい情報								
1. 公共施設講座	21.40%	40.70%	57.50%	53.10%	46.80%	55.30%	53.60%	34.60%
2. 民間施設講座	21.40%	20.40%	43.80%	27.20%	29.10%	29.40%	24.00%	7.70%
3. 施設設備・空き情報	14.30%	20.40%	30.10%	12.30%	10.10%	9.40%	10.40%	10.30%
4. サークル・同好会	23.80%	31.50%	21.90%	23.50%	20.30%	29.40%	27.20%	20.50%
5. 地域・ボランティア	19.00%	13.00%	23.30%	18.50%	17.70%	31.80%	22.40%	9.00%
6. 指導者・講師	9.50%	13.00%	19.20%	14.80%	8.90%	8.20%	8.00%	10.30%
7. 費用	11.90%	20.40%	26.00%	23.50%	19.00%	15.30%	12.80%	5.10%
8. 資格取得	59.50%	55.60%	56.20%	38.30%	38.00%	16.50%	4.80%	2.60%

（注）太字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。Nは各年齢層の全回答者数（問1の結果より算出。）

3. 視覚的表現（グラフ）

問7. 主な知りたい情報の年齢別選択率（バネルグラフ）



9. 生涯学習活動で得た知識や技能の活用状況 (問8)

1. 設問内容 問8. これまでの生涯学習活動を通じて得た知識や技能を、どのように活かしていますか。(複数回答可) ※この設問の対象者は、問1で「生涯学習活動をしている」または「しているが、不満がある」と回答した方(活動者)です。

2. 回答状況(年齢別・活用方法別選択率) (各年齢層の活動者数を分母として、各活用方法を選択した人の割合を示しています。活用方法の名称を簡略化しています。)

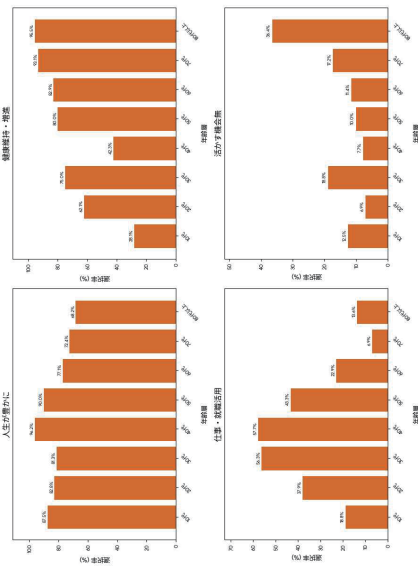
(注)・本設問は複数回答が可能です。
・各選択肢の選択率は、問1で「生涯学習活動をしている」または「しているが不満がある」と回答した「活動者」を母数として算出しています。

活用方法	10代 (N=32)	20代 (N=29)	30代 (N=26)	40代 (N=32)	50代 (N=30)	60代 (N=35)	70代 (N=58)	80代以上 (N=22)
1. 人生が豊かに	87.50%	82.80%	81.30%	96.20%	90.00%	77.10%	72.40%	68.20%
2. 健康維持・増進	28.10%	62.10%	75.00%	42.30%	80.00%	82.90%	83.10%	95.50%
3. 家庭・日常生活	25.00%	27.60%	68.80%	48.20%	36.70%	42.90%	34.50%	31.80%
4. 仕事・就職活用	18.80%	37.90%	56.30%	57.70%	43.30%	22.90%	6.90%	13.60%
5. 地域活動等活用	12.50%	10.30%	12.50%	19.20%	23.30%	25.70%	17.20%	27.30%
6. 活かす機会無	12.50%	6.90%	18.80%	7.70%	10.00%	11.40%	17.20%	36.40%
7. 活かす意思無	3.10%	3.40%	9.40%	19.20%	3.30%	2.90%	8.60%	9.10%

(注:上記のNは各年齢層の活動者数(問10の結果より算出)。本字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。)

3. 視覚的表現(グラフ)

問8. 主な学習成果の活用の年齢層別選択率(バネルグラフ)



4. 分析結果と考察(ポイント):

- **全世代で高い「公共施設講座情報」へのニーズ:**
「公共施設講座情報」は全世代でニーズが高く、特に30代から70代で5割を超え、生涯学習の場の中心として期待されています。
- **若年・働く世代の強い関心「資格取得情報」:**
「資格取得情報」は若年・働く世代で非常にニーズが高く、10代から30代では5割以上が選択しています。キャリア形成への意識の高さを示し、60代以降は低下します。
- **若年層と高齢者層に共通する「サークル・同好会情報」へのニーズ:**
双方でニーズが高い傾向が見られ、仲間づくりの場として期待されています。
- **働く世代の実用的な情報ニーズ:**
働く世代では、「民間施設講座情報」(特に30代)、「施設設備・空き情報」、「費用情報」といった、多様な選択肢や参加の判断材料となる実用的な情報への関心が高い傾向にあります。
- **中高年層の「地域・ボランティア情報」への関心:**
「地域・ボランティア情報」は中高年層で関心が高まり、60代(31.8%)でピークに達します。地域社会への参加意欲の表れと考えられます。

● 自由記述より:

「その地の知りたい情報」に関する自由記述(詳細は巻末資料p54参照)では、「特になし」や実質的な無記入が多数を占めた一方で、特定の趣味(ギター、カラス等)に関するサークル情報、土日開催や自宅近くといった活動条件、投資や防犯といった具体的な学習テーマなど、既存の選択肢だけでは捉えきれない個別の情報ニーズも多数から見られました。また、「カラススタンプなどの情報をもっと広げてほしい」「指導者が不足している」といった、情報提供のあり方や学習環境に関する意見も寄せられました。

杉戸町の生涯学習推進への示唆:

- **情報提供内容の最適化:**～ニーズに応じた情報を、求める人～世代別の主要な関心事(若年・働く世代の資格取得、高齢者のサークル活動、全世代の公共施設講座など)に合わせた情報提供の優先順位付けと内容の充実が必要です。
- **多様な学習機会の提示:**～公も民も、学びの選択肢を豊かに～公共施設だけでなく、民間施設やサークル、同好会、地域活動・ボランティアといった多様な学びの選択肢に関する情報提供を強化します。
- **実用情報の提供強化:**～安心して学ぶための情報を～施設設備・空き状況や費用といった、学習参加を具体的に検討する上で必要な実用的な情報の透明性を高め、アクセスしやすくします。
- **資格取得支援の充実:**～スキルアップ、キャリアアップを応援～特にニーズの高い資格取得に関する情報を集約し、相談体制の整備や関連講座の誘致なども視野に入れます。

10. 今後の活動参加意向（及び関連する障壁等）（問9）

1. 設問内容 問9、生涯学習活動で得た知識や技能を活かし、どのような活動に参加してみたいですか。（複数回答可）※この設問の対象者は、アンケートに回答した全町民です。

2. 回答状況（年齢別・活かしたい活動/意向別選択率）

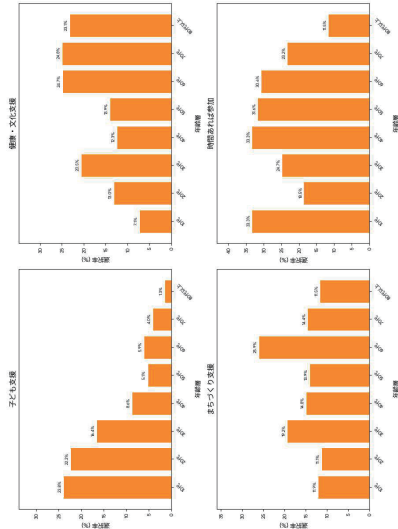
（注）・本設問は複数回答が可能です。
 ・各選択肢の選択率は、問1の各年齢層の全回答者を母数として算出しています。
 ・この回答には、「今後、生涯学習活動を実施し、知識や技能を得たと想定した場合に、どのような活動に興味があるか」という視点からの回答も含まれていると考えられます。

活かしたい活動/意向	10代 (N=42)	20代 (N=54)	30代 (N=73)	40代 (N=81)	50代 (N=79)	60代 (N=85)	70代 (N=125)	80代以上 (N=78)
1. 子ども支援	23.80%	22.20%	16.40%	8.60%	5.10%	5.80%	4.00%	1.30%
2. 子育て支援	11.90%	16.70%	21.90%	14.80%	11.40%	5.90%	3.20%	2.60%
3. 青少年育成	4.80%	1.90%	6.80%	1.20%	6.30%	7.10%	2.40%	1.30%
4. 健康・文化支援	7.10%	13.00%	20.50%	12.30%	13.90%	24.70%	24.80%	23.10%
5. まちづくり支援	11.90%	11.10%	19.20%	14.80%	13.90%	25.90%	14.40%	11.50%
6. 社会問題活動	14.30%	11.10%	9.60%	9.90%	16.50%	16.50%	8.80%	10.30%
7. 時間あれば参加	33.30%	18.50%	24.70%	33.30%	31.60%	30.60%	23.20%	11.50%
8. 参加意向なし	19.00%	38.90%	26.00%	23.50%	24.10%	11.80%	20.00%	28.20%

（注）上記のNは各年齢層の全回答者数（問1の結果より算出）。太字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。）

3. 視覚的表現（グラフ）

問9. 主な活動意向の年齢別選択率（ハネルグラフ）



4. 分析結果と考察（ポイント）

- 最も普遍的な実感「人生が豊かに」：
最も普遍的な実感は「人生が豊かに」で、全世代で非常に高い割合（多くが70%以上）が選択しており、生涯学習が個人の充足感に大きく寄与していることを示しています。
- 高齢者層で特に顕著「健康維持・増進」：
「健康維持・増進」は年代と共に選択率が上昇し、50代以降は圧倒的な実感となります。高齢期の学習が心身の健康に不可欠な要素であることがうかがえます。
- 働く世代で高い「仕事・就職活用」：
「仕事・就職活用」は働く世代で選択率が高く、特に30代(56.3%)と40代(57.7%)でピークに達し、学習がキャリアに直結している層の実感を示しています。
- 「家庭・日常生活活用」の実感：
「家庭・日常生活活用」は特に30代(68.8%)で高いですが、他の幅広い世代でも生活への具体的な還元が感じられています。
- 課題としての活用機会：
課題として、「地域活動等活用」は全世代で他の活用方法より低い水準にあります。また、「活かす機会がない」と回答した層も一定数見られ（特に80代以上で36.4%）、学習成果の還元機会の不足が示唆されます。「活かす意思無」は全体的に少数ですが、40代でやや目立ちます。
- 自由記述より：
「その他の活用方法」に関する自由記述（詳細は巻末資料p55参照）は少数でしたが、「父の介護のため」「寂しさを紛らすため」といった個別の生活状況に密着した活用例や、スキル習得途上であるとの声が見られました。

杉戸町の生涯学習推進への示唆

- 学習成果の多様な価値の強調：～「人生の豊かさ」を実感できる喜びを広報～
学習がもたらす個人的な充足感や生活の質の向上といった価値を、町民に広く伝え、学習意欲を喚起します。
- 健康寿命延伸への貢献PR：～「学び」を通じた健康づくりを推進～
特に高齢者層に対し、学習が健康維持・増進に繋がることを積極的に周知し、関連プログラムを充実させます。
- 学習成果の社会的活用促進：～「学び」を地域力・仕事力へ～
学習で得た知識や技能を地域活動、ボランティア、仕事などで活かせる具体的な機会（マッチング支援、発表の場、実践型講座など）を創出し、学びと社会参加の好循環を目指します。
- 「活かす機会がない」層への対応：～成果活用の出口戦略を構築～
学習成果を活かしたいが機会がないと感じる層に対し、そのニーズを把握し、地域や企業と連携して活躍の場を提供・仲介する仕組みづくりが求められます。

1.1. 関心のある学習テーマ (問10)

1. 設問内容 問10. 地域や社会の中で、あなたが関心のある学習テーマは何ですか。(複数回答可) ※この設問の対象者は、アンケートに回答した全町民です。

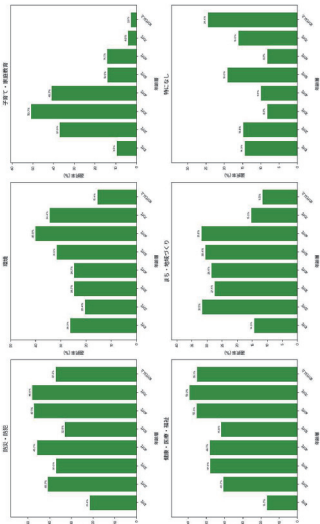
2. 回答状況 (年齢別・関心のある学習テーマ別選択率) (各年齢層の全回答者数を分母として、各テーマを選択した人の割合を示しています。テーマ名を簡略化しています。)
(注)・本設問は複数回答が可能です。・各選択肢の選択率は、問1の各年齢層の全回答者を母数として算出しています。

関心のある学習テーマ	10代 (N=42)	20代 (N=54)	30代 (N=73)	40代 (N=81)	50代 (N=79)	60代 (N=65)	70代 (N=125)	80代以上 (N=78)
1. 防災・防犯	21.40%	40.70%	37.00%	32.90%	47.10%	48.00%	37.20%	37.20%
2. 環境	26.20%	20.40%	24.70%	31.60%	40.00%	34.40%	15.40%	15.40%
3. 子育て・家庭教育	9.50%	37.00%	50.70%	40.70%	13.90%	14.10%	4.00%	2.60%
4. 青少年育成	9.50%	7.40%	15.10%	11.10%	6.30%	8.20%	3.20%	1.30%
5. 健康・医療・福祉	16.70%	16.70%	40.70%	47.90%	41.80%	59.20%	55.10%	55.10%
6. 少子高齢化	16.70%	16.70%	16.40%	16.00%	8.90%	17.80%	14.40%	12.80%
7. 障がい者福祉	14.30%	20.40%	21.90%	13.60%	7.60%	21.20%	12.00%	15.40%
8. 地域の歴史文化	9.50%	24.10%	19.20%	21.00%	17.70%	17.80%	18.40%	5.10%
9. まち・地域づくり	11.90%	31.50%	27.40%	28.40%	30.40%	31.80%	15.20%	11.50%
10. 人権	11.90%	13.00%	11.00%	4.90%	3.80%	5.90%	5.60%	1.30%
11. 男女共同参画	9.50%	5.60%	4.10%	4.90%	6.30%	2.40%	0.80%	1.30%
12. 国際交流	26.20%	13.00%	17.80%	8.60%	10.10%	5.90%	3.20%	1.30%
13. 特になし	14.30%	14.80%	8.20%	9.90%	19.00%	8.20%	16.00%	24.40%

(注:上記のNは各年齢層の全回答者数(問1の結果より算出)。太字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。)

3. 視覚的表現 (グラフ)

問10. 主な関心のある学習テーマの年齢別選択率 (ピルグラフ)



4. 分析結果と考察 (ポイント)

- 若年層の関心「子ども関連支援」:**
 若年層の関心は「子ども関連支援」に集まる傾向があり、「子ども学習・スポーツ支援」は10代・20代で、「子育て・家庭教育支援」は30代でそれぞれ関心のピークが見られます。
- 中高年～高齢者層の関心「健康・文化・まちづくり」:**
 中高年～高齢者層では、「健康・文化講座支援」や「まちづくり・地域づくり支援」への関心が高まり、特に60代でその意欲がピークに達する傾向があります。
- 大きな障壁「時間的制約」:**
 「参加したいが、時間的制約がある」は、10代と40代～60代で3割を超えなほど、世代を問わず活動参加への意欲を阻む大きな障壁であることが改めて示されました。
- 「参加しにくい」層の存在:**
 「参加しにくい」という意向は20代(38.9%)で最も高く、80代以上(28.2%)でも高い水準です。これらの層への動機付けが課題となります。
- 自由記述より:**
 「その他の参加してみたい活動や意向」に関する自由記述(詳細は巻末資料p56参照)では、「特になし」や具体的な記述がない回答が大多数を占めました。その他の記述としては、自己のスキルへの自信のなさや活用方法が不明であったといった声、健康や家庭の事情といった具体的な参加障壁のほか、少数ながら「老人ホーム訪問」や「自然公園のガイド」といった活動への関心、既存の機会への改善要望や「持っているスキルを活かす場がない」といった意見も見られました。これらは、学習成果の活用を促す上での課題や、新たな機会創出の可能性を示唆しています。

杉戸町の生涯学習推進への示唆:

- 世代別関心領域への機会提供: ～「学びを活かす」多様なステージを～**
 若年層向けには子ども支援活動、子育て世代には家庭教育支援、中高年～高齢者層には健康・文化・まちづくり支援といった、各世代の関心が高い分野での活動機会の情報提供や創出を行います。
- 参加障壁の分析と軽減: ～「時間がない」を理由に諦めさせない～**
 「時間的制約」が大きな障壁となっているため、短時間で参加できる活動、オンラインでの参加が可能な活動、活動時間や曜日に柔軟性のある機会などを増やす工夫が必要です。
- 不参加層向けへの理解と働きかけ: ～「参加の魅力」を伝え、動機を醸成～**
 「参加しにくい」と回答した層の背景(学習成果と活動内容のミスマッチ、情報不足、心理的ハードル等)を理解し、活動の意義や楽しさを伝える啓発や、気軽に参加できる入口を用意することが求められます。
- 活動のマッチング機能強化: ～「スキル」と「ニーズ」を結びつける～**
 学習で得たスキルを活かしたい町民と、地域で支援を求める団体や活動とのマッチングを促進する仕組みづくりを検討します。

4. 分析結果と考察 (ポイント) :

- **全世代的に高い関心テーマ:**
「防災・防犯」と「健康・医療・福祉」は、世代を問わず関心が高いテーマです。「防災・防犯」は20代から70代で、「健康・医療・福祉」は30代以降で特に高いニーズがあり、高齢層では半数を超えます。
- **子育て世代の強い関心:**
「子育て・家庭教育」は、20代から40代の子育て当事者世代から特に高い関心が示され、30代(50.7%)でピークに達します。
- **若年層に特徴的な関心:**
若年層では「環境」(10代26.2%)や「国際交流」(10代26.2%)への関心が比較的高く、特に「国際交流」は10代に特徴的な関心事です。
- **中高年層の地域への関心:**
「まち・地域づくり」は20代から60代にかけて安定した関心があり、特に50代・60代で地域への関与意欲として高く表れています。
- **学習テーマへの関心が薄い層:**
学習テーマについて「特になし」と回答した層も全世代で10~20%程度存在し、特に80代以上(24.4%)で高く表れます。関心が薄い層へのアプローチも課題です。
- **自由記述より:**
「その他の関心のある学習テーマ」に関する自由記述(詳細は巻末資料p57参照)では、「特になし」や具体的な記述がない回答が多くを占めました。少数ながら「言語学習」や「科学習」といった個別の学習テーマのほか、町のインフラや治安、医療体制に関する意見、要望も見受けられました。これは、生涯学習のテーマ設定において、より幅広い町民の関心や生活課題を視野に入れる必要性を示唆しているとも考えられます。

杉戸町の生涯学習推進への示唆:

- **現代的課題への対応:** ~「防災・防犯」「健康」ニーズの高いテーマの講座充実~
町民の生命や安全、健康に直結するテーマは優先度を高く設定し、継続的な学習機会を提供します。
- **ライフステージ別テーマ設定:** ~「子育て」など特定層のニーズを的確に捉える~
子育て世代、高齢者など、各ライフステージ特有の関心に応えるプログラムを企画・提供します。
- **地域課題への関心喚起:** ~「まちづくり」「環境」などへの参加促進~
地域課題をテーマとした学習機会を通じて、町民の当事者意識を高め、地域活動への参加を促します。
- **多様な興味への対応と潜在的関心の喚起:** ~「国際交流」「歴史文化」幅広い選択肢を~
幅広い分野の学習テーマを提供し、多様な興味に応えると共に、「特になし」と回答した層への働きかけも重要です。

1.2. 町が生涯学習推進のために力を入れるべきこと (問1.1)

1. 設問内容 問1.1. さらに生涯学習活動を盛んにするため、町が力を入れていくべきことは何ですか。(複数選択可) ※この設問の対象者は、アンケートに回答した全町民です。
2. 回答状況 (年齢別・力を入れるべきこと別選択率) (各年齢層の全回答者数を分母として、各項目を選択した人の割合を示しています。項目名を簡略化しています。)

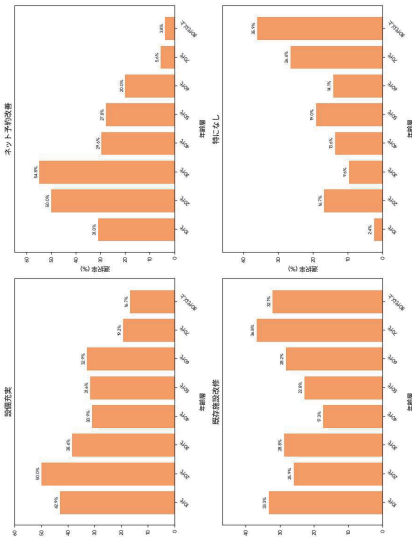
・各選択肢の選択率は、問1の各年齢層の全回答者を母数として算出しています。

町が力を入れていくべきこと	10代 (N=42)	20代 (N=54)	30代 (N=73)	40代 (N=81)	50代 (N=79)	60代 (N=65)	70代 (N=125)	80代以上 (N=78)
1. 施設増設	40.50%	27.80%	27.40%	16.00%	6.30%	22.40%	12.00%	14.10%
2. 既存施設改修	33.30%	25.90%	28.80%	17.30%	22.80%	28.20%	36.80%	32.10%
3. 設備充実	42.90%	50.00%	38.40%	30.90%	31.60%	32.90%	19.20%	16.70%
4. 学校施設活用	35.70%	14.80%	34.20%	30.90%	25.30%	32.90%	24.80%	14.10%
5. 職員対応向上	16.70%	9.30%	20.50%	17.30%	15.20%	20.00%	9.60%	5.10%
6. ネット予約改善	31.00%	50.00%	54.80%	29.60%	27.80%	20.00%	5.60%	3.80%
7. 総合施設建設	40.50%	33.30%	24.70%	27.20%	16.50%	21.20%	21.60%	17.90%
8. 特になし	2.40%	16.70%	9.60%	13.60%	19.00%	14.10%	26.40%	35.90%

(注: 上記のNは各年齢層の全回答者数(問1の結果より算出)。太字は各年代で特に高い、あるいは特徴的な数値。)

3. 視覚的表現 (グラフ) のご提案

問11. 町が力を入れるべきことの年齢別選択率 (バレルグラフ)



第3章 まとめと今後の課題

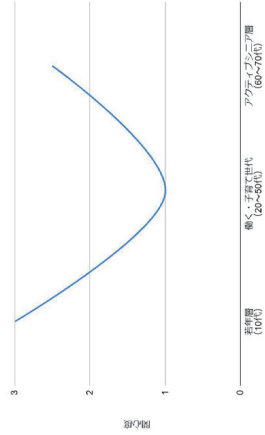
本アンケート調査は、「新たな生涯学習推進計画」策定の基礎資料を得ることを目的に実施しました。町民の皆様から寄せられた貴重なご意見を通じて、杉戸町の生涯学習の現状と町民ニーズ、そして今後の推進に向けた課題や期待が明らかになりました。

以下にその主要な結果を要約し、本町における生涯学習の特徴と強み、課題を整理するとともに、今後の計画策定に向けた示唆・提言を述べます。

1. 調査結果の概要

本調査から見えてきた、本町における町民の生涯学習への参加状況には、**ライフステージに応じた特徴的な傾向**が見られます。具体的には、【図3-1-1】が示すように、10代で参加率が非常に高いものの、働く世代・子育て世代で一度落ち込み、再び高齢者層で上昇するというカーブを描いています。

【図3-1-1】生涯を通じた学習参加の傾向イメージ図



詳細を見ると、10代の参加率が際立って高い一方、30代から50代の働く世代・子育て世代で参加率が低下し、60代・70代で再び上昇、80代以上で再度低下するという、この傾向が確認されました。活動の形態や理由は世代間で異なり、**若年層は自己啓発やスキルアップを目的とした個人学習やフオーマールな学びが多く、高齢者層**

4. 分析結果と考察（ポイント）：

- ・ **若年～中年層のニーズ「設備充実」「ネット予約改善」**：
若年～中年層からは「設備充実」へのニーズが高く、特に10代・20代で顕著です。また、「ネット予約改善」は20代・30代で半数を超え、働く世代の利便性向上への強い要望が示されています。
- ・ **高齢者層のニーズ「既存施設改修」**：
高齢者層では「既存施設改修（バリアフリー等）」へのニーズが特に高く、70代（36.8%）と80代以上（32.1%）で3割を超え、安心して利用できる環境整備が課題です。
- ・ **若年層の期待「新たな施設」**：
「施設増設」や「総合施設建設」は特に10代で4割を超え、高いニーズがあり、多様な学習・活動の場への期待がうかがえます。
- ・ **幅広い世代からの期待「学校施設活用」**：
「学校施設活用」には幅広い世代で3割程度の安定したニーズがあり、身近な施設の有効活用が期待されています。
- ・ **「特になし」の高齢層での増加**：
「特になし」は年代と共に増加傾向にあり、特に70代・80代以上で高くなり、既存施設への満足や新たな要望が少ない可能性を示唆します。
- ・ **自由記述より**：
「その他の町力を入れるべきこと」に関する自由記述（詳細は巻末資料p58参照）では、選外以外にも、種々の意見が寄せられました。特に、生涯学習に関する情報提供・広報・周知方法の抜本的な改善を求める声が際立って多く、次いで活動場所や時間、交通手段といったアクセシビリティの向上に関する要望が多数見られました。その他、講座内容の多様化・質の向上、特定の施設（スポーツ施設、文化施設等）の新設や既存施設の有効活用、指導者の確保や活動費用の補助といったソフト面での支援、オンライン学習環境の整備など、具体的な提案が数多く挙げられており、町民の多様な期待が浮き彫りになりました。

杉戸町の生涯学習推進への示唆

- ・ **学習環境の質の向上**：～「設備充実」で学びの魅力を高める～
特に若年・中年層のニーズが高い「設備の充実」に計画的に取り組み、学習環境の魅力を向上させます。
- ・ **利便性向上とDX推進**：～「ネット予約改善」で参加しやすく～
働く世代の強い要望である「インターネット予約の容易化」をはじめとするとDXを推進し、施設利用の利便性を高めます。
- ・ **ユニバーサルデザインへの推進**：～「既存施設改修」で誰もが安心して学べる場を～
高齢者層の要望が高い「既存施設のバリアフリー化」を着実に進め、全ての町民が利用しやすい施設環境を整備します。
- ・ **学習資源の有効活用と多様な場の確保**：～学びの「拠点」拡充～
学校施設のさらなる活用や、若年層の期待も満たした施設増設・総合型施設のあり方を検討し、多様な学習ニーズに応える場を確保します。

層といったように、ライフステージに応じた特徴も見られました。「特になし」と回答する層も一定数存在しました。

町への期待としては、**若年・中年層からは「設備の充実」や「インターネット予約の容易化」、高齢者層からは「既存施設のバリアフリー化」といった具体的な学習環境整備への要望が強く示されました。**

2. 杉戸町の生涯学習の現状（特徴・強み）と課題

本調査結果から、杉戸町の生涯学習には以下のような特徴、強み、そして取り組みべき課題が見えてきます。

- **特徴**
 - 町民の学習ニーズや活動実態、情報行動は、**ライフステージや年齢によって明確に分かれる傾向**があります。
 - 「人生を豊かにしたい」「趣味や興味を広げたい」「健康を維持したい」といった、個人の生活の質向上に直結する**内発的な学習動機**が強いと言えます。
- **強み**
 - **若年層の学習意欲が高く**、特に資格取得など明確な目的を持った学習への高い関心が見られます。
 - **高齢者層の学習活動が活発**であり、特に健康づくりや生きがいづくりへの高い意識がうかがえます。
 - **公共施設が、情報提供の場としても学習活動の場としても、町民から広く認知され、期待されています。**
 - 防災や健康といった、**町民共通課題に対する学習関心が高い**ことも強みの一つです。

は**健康維持や趣味・生きがい、仲間づくりを目的とした公共施設での講座やグループ活動が中心**でした。学習を始めるきっかけも、内発的な興味関心に加え、ライブイベント（就職、子育て、退職など）や知識・情報のアップデートの必要性が大きく影響していました。これらの世代間の主な特徴をまとめたものが、【図3-1-2】の通りです。

【図3-1-2】生涯学習の主な世代間特徴比較

特徴	若年層・働く世代（10代～50代）	高齢者層（60代以上）
主な活動形態	・一人での学習（PC、書籍など） ・大学や専門学校、職場での学習	・町が主催する講座や教室 ・グループ・サークル活動
主な学習理由	・職業スキルの上昇 ・新しい趣味やスキルの習得	・健康維持、生きがいづくり ・趣味、仲間との交流
主な情報源	・インターネット、SNS	・広報すぎと、地域の掲示板・回覧板
町への主な期待	・設備の充実 ・インターネット予約の改善	・既存施設のバリアフリー化 ・地域活動への支援

情報入手手段については、**若年・働く世代はインターネット・SNSが主**であるのに対し、**高齢者層は広報紙や地域の掲示板・回覧板といった従来型メディアへの依存度が高い**という明確な世代差が見られました。また、全世代を通じて「特に情報を得ていない」層も一定数存在しました。

知りたい情報としては、「公共施設の講座情報」が一般的に高いニーズを示しつつ、**働く世代には「資格取得」、若年層や高齢者層には「サークル活動」への関心が高い傾向**が見られました。

学習成果の実感としては、「人生が豊かになった」が**全世代で最も多く**、次いで高齢者層では「健康維持・増進」、働く世代では「仕事や就職への活用」が挙げられました。

しかし、学習成果を「ボランティアなど地域活動」に活かしている割合は相対的に低く、「**活かす機会がない**」と感じる声も、特に高齢層で見られました。

今後の活動意向では、様々な地域活動への関心が示される一方で、「**参加したいが、時間的制約がある**」という回答が**多くの世代で主要な障壁**として挙げられました。

関心のある学習テーマでは、「**防災・防犯」「健康・医療・福祉」が世代を超えて高い関心を集め**、「子育て・家庭教育」は子育て世代、「まちづくり」は中高年

3. 計画策定に向けた提言

これらの結果と課題を踏まえ、「新たな生涯学習推進計画」策定にあたっては、以下の視点を重視し、具体的な施策に繋げていくことを提言します。

- **世代横断的テーマと世代別テーマの戦略的組み合わせ**

～学びを通じた、全世代活躍のまちづくり～

全世代の関心が高い「防災」や「健康」を共通テーマとしつつ、若年・働く世代向けの「スキルアップ講座」や、子育て世代向けの「家庭教育セミナー」、高齢者向けの「生きがいづくり講座」といった、各世代のニーズに特化したプログラムをバランス良く提供していく視点が重要です。

- **参加しやすい環境整備とアクセシビリティの向上**

～いつでも、どこでも、だれでも学べる機会の保障～

具体的には、働く世代が参加しやすい「夜間・土日講座」や「オンライン講座」の拡充、高齢者のための施設の「バリアフリー化」や移動支援の検討、そして誰もがスムーズに利用できる「インターネット予約システム」の改善などが挙げられます。

- **情報提供方法の多角化とパーソナライズ**

～一人ひとりに届く、きめ細やかな情報発信～

若年層には「SNSや町のおウェブサイト」での発信を強化し、高齢者層には従来通り「広報すぎと」や「回覧板」で丁寧に情報を届けるなど、世代別の情報チャネルに合わせた発信を行うとともに、「特に情報を得ていない」層へのアプローチも検討します。

- **「学び」と「活動」の好循環システムの構築**

～学びを活かし、地域で輝くステップアップ支援～

市民が学習で得た知識や技能を、ボランティアや地域活動で実践できる「発表の場」や「活動紹介・マッチングの機会」を創出することで、学びが個人の満足に留まらず、地域貢献へと繋がる循環を生み出します。

- **課題**

- **働く世代・子育て世代の学習参加の促進**
時間的制約が最大のネックとなっており、この世代が参加しやすい学習機会や情報提供の方法が求められます。
- **情報格差の是正**
若年層と高齢者層での情報入手手段の違いが大きく、また「特に情報を得ていない」層も存在するため、情報が届きにくい層への配慮と多角的な情報発信が必要です。
- **学習成果の社会還元と機会創出**
学習で得た知識やスキルを地域活動やボランティアに活かしたいという意欲に対し、実際に活かせる機会が不足しています。
- **学習環境の整備**
ニーズの高い「設備の充実」、利便性向上のための「インターネット予約の改善」、そして高齢者にとって不可欠な「施設のバリアフリー化」への対応が急がれます。
- **学習意欲の喚起と多様なニーズへの対応**
「特に関心がない」「特に学びたいテーマがない」と回答した層へのアプローチや、ニッチな関心にも応えられる学習機会の提供が必要です。

以上の特徴・強み・課題をSWOT分析の手法を用いて整理したものが、【図3-2-1】

【図3-2-1】 杉戸町の生涯学習に関するSWOT分析

S: 強み (Strengths) <ul style="list-style-type: none"> 若年層、高齢者層の高い学習意欲 公共施設の高い認知度と期待 防災、健康などへの高い関心 	W: 弱み (Weaknesses) <ul style="list-style-type: none"> 働く世代の参加率の低さ (時間的制約) 世代間の情報格差 学習成果の社会還元機会の不足 (施設への具体的な改善策、設備、予約、バリアフリー)
O: 機会 (Opportunities) <ul style="list-style-type: none"> 「人生を豊かにしたい」という強い内発的動機 多様な学習ニーズの存在 	T: 脅威 (Threats) <ul style="list-style-type: none"> 関心層の存在 社会全体の多文化

• **多様な主体との連携・協働の強化**

～オールさぎとで支える、学びのネットワークづくり～

行政だけでなく、地域のNPO、企業、サークル、そして専門的な知識や技能を持つ町民自身といった多様な主体が講師や運営の担い手となれるよう連携を深め、地域全体で生涯学習を支えるネットワークを構築します。

巻末資料

おわりに

1. 杉戸町生涯学習意識調査アンケート調査票（写し）
2. 各設問における自由記述の分析結果概要

本調査結果を十分に活用し、これからの杉戸町の生涯学習推進において、町民一人ひとりの自己実現と、より豊かで活力ある地域社会の実現に繋がる実効性のある計画策定に、全力で取り組んでまいります。

問3. 生涯学習活動を行う理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 趣味や興味を広げたいから
2. 職業スキルを向上させたいから
3. 社会参加や地域活動に役立てたいから
4. 健康や心身の調子を保つため
5. その他 (自由記載)

[]

→問4. へお進みください。

問4. 生涯学習活動を行うようになっただけは何ですか。(○はいくつでも)

1. 退職後の時間を有効活用したいから
2. 子どもの成長に合わせて学びなおしたいから
3. 新しい趣味やスキルを身につけたいから
4. 知識や情報「アップデート」(時代に即した内容にすること)が必要だと感じたから
5. その他 (自由記載)

[]

→問6. へお進みください。

問5. 生涯学習活動を行っていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

※問1で「2」を選択した方のみ

1. 忙しくて時間がない
2. 興味がない
3. 学習機会がない
4. 生涯学習に関する情報を得る機会がない
5. その他 (自由記載)

[]

→問6. へお進みください。

1. 生涯学習活動への関わりについてお聞きします。

問1. この1年間くらいの間に「生涯学習活動(※)」を行っていますか。(○は1つ)

※「生涯学習活動」とはどんな活動か?→p1 下段の説明をご覧ください。

1. している →問2. へお進みください。
2. していない →問5. へお進みください。
3. しているが、不満がある →問2. へお進みください。

●「1」又は「3」を選択した方へ、それはどんな活動ですか?

活動中の分野の□に✓をし、() 内には具体的な内容や種目をお書きください。

(✓及び記入は、いくつでも可)

- 文化的な活動 ()
- スポーツ活動 ()
- ボランティア活動 ()
- その他 ()

問2. それは、どの地域で、どのような形態で行っていますか。(○はいくつでも)

(地域)

1. 町内
2. 町外

(形態等)

1. 公民館、図書館、生涯学習センターなどの公共施設が行う講座・教室等への参加
2. 学校(小・中学校、高等学校、大学など)の公開講座へ教室等への参加
3. 大学、短期大学、専門学校その他の学校への入学又は再入学
4. カルチャースペースやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加
5. 同好者が自主的に行っているグループ・サークルへの参加
6. パソコン・インターネットを活用した個人学習
7. 書籍等を活用した個人学習
8. 職場内研修、会社が指定する外部研修等への参加
9. その他(自由記載)

[]

→問3. へお進みください。

問8. これまでの生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能を、どのように活かしていますか、又は、今後活かせると思いますか。(〇はいくつでも)
※問1で「1」又は「3」を選択した方のみ

1. 自分の人生がより豊かになっている
2. 自分の健康維持や健康増進に役立っている
3. 家庭や日常生活に活かしている
4. 仕事や就職に活かしている
5. ボランティアなど地域活動に活かしている
6. 活かす機会がない
7. 活かそうとは思わない
8. その他(自由記載)

[]

→問9. へお進みください。

問9. 生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能を活かすため、地域や社会でどのような活動に参加してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 休日や放課後に、子どもたちの学習やスポーツなどを支援する活動
2. 子育てや家庭教育を支援する活動
3. 青少年の健全育成を支援する活動
4. 住民向けの健康づくりや、文化的な講座を支援する活動
5. まちづくり、地域づくりを支援する活動
6. 社会問題(防災、環境、少子高齢化、人権、男女共同参画など)に関する活動
7. 参加したいが、時間的制約がある
8. 参加したくない
9. その他(自由記載)

[]

→問10. へお進みください。

問6. 生涯学習活動に関する情報をどのように得ていますか。(〇はいくつでも)

1. 新聞、テレビ、雑誌、ラジオ
2. 広報すそと、自治会掲示板、回覧板
3. 町役場や公民館等の公共施設(ポスター・チラシなど含む)
4. インターネット、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)
5. 駅や商業施設など(ポスター、チラシなど含む)
6. 友人や知人からの情報
7. 特に得ていない
8. その他(自由記載)

[]

→問7. へお進みください。

問7. 生涯学習活動に関して、どのような情報を知りたいですか。(〇はいくつでも)
※問1で「2」を選択した方は、今後取り進むと仮定した際のお考えをお聞かせください。

1. 公共施設で開催される講座や教室の情報
2. カルチャースタター、スポーツクラブなど民間施設の講座・教室の情報
3. 生涯学習施設の設備や空き状況などの情報
4. サークルや同好会の活動の情報
5. 地域活動やボランティア活動に関する情報
6. 指導者や講師に関する情報
7. 講座や教室等に参加するための費用に関する情報
8. 資格取得に関する情報
9. その他(自由記載)

[]

→問8. へお進みください。

2. あなた自身のことについてお聞きします。

※アンケート結果の分析に必要ですので、必ずお答えください。(分析以外の目的には使用しません。)

問12. あなたの年齢(令和6年4月1日現在)について(○は1つ)

1. 10代
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80代以上

→問13. へお進みください。

問13. あなたの住所について(1~5に○をつけてください)

1. 西地区	大字下野、大字高野、大字茨島、大字大島、高野台東1~2丁目、高野台南1~5丁目、高野台西1~6丁目
2. 中央地区	大字杉戸、杉戸1~7丁目、内田1~4丁目、大字清地、清地1~6丁目、大字倉松、倉松1~5丁目、大字本島
3. 南地区	大字堤根、大字本郷
4. 東地区	大字蓮野、大字広戸沼、大字佐左門、大字並塚、大字才羽、大字北蓮沼、大字大塚
5. 泉地区	大字屏風、大字深輪、大字権、大字木津内、大字目沼、大字宮前、大字鳳巣、大字木野川

これでアンケートは
終わりです。



最後まで協力いただき、
ありがとうございました。

この調査票を返信用封筒に入れ、期限までにご投函ください。
回答期限：令和6年9月30日(当日消印有効)

問10. 地域や社会の中で、あなたが関心のある学習テーマは何ですか。
(○はいくつでも)

1. 防災・防犯に関すること
2. 環境に関すること
3. 子育てや家庭教育に関すること
4. 青少年の健全育成に関すること
5. 健康(保健・医療・福祉)に関すること
6. 少子高齢化に関すること
7. 障がい者福祉に関すること
8. 地域の歴史・文化・自然に関すること
9. まちづくり、地域づくりに関すること
10. 人権に関すること
11. 男女共同参画に関すること
12. 国際交流に関すること
13. 特になし
14. その他(自由記載)

→問11. へお進みください。

問11. 今後、さらに生涯学習活動を盛んにしていくため、町はどのような点に力を
入れていくべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 施設の数を増やす
2. 既存の施設をだれもが利用しやすいように改修する(バリアフリー化)
3. 設備を充実させる
4. 学校の教室等をさらに利用しやすくする(空き教室や廃校の活用を含む)
5. 職員への対応やサービスを向上する
6. インターネットで予約をしやすいようにする
7. 多様な学習に対応できる総合型の施設を作る
8. 特になし
9. その他(自由記載)

→問12. へお進みください。

2. 各設問における自由記述の分析結果概要

(1) 問1 活動内容について

問1で「生涯学習活動をしている」または「しているが、不満がある」と回答した方に、具体的な活動内容を自由記述で尋ねたところ、極めて多様な活動が挙げられました。主な傾向は以下の通りです。

- **スポーツ・健康づくりに関する活動**：最も多くの記述が見られた分野です。ウォーキングや体操、筋力トレーニングといった日常的な健康維持活動から、ゴルフ、テニス、水泳、卓球、ダンスといった特定のスポーツまで、幅広い種目が挙げられました。
。記述例：「週に2回、地域の体育館で卓球を楽しんでいます」「毎朝のウォーキングとラジオ体操が日課です」「友人とゴルフコースを回っています」
- **文化・教養に関する活動**：読書や音楽鑑賞、映画鑑賞といった個人的な趣味に加え、楽器演奏（ピアノ、ギター等）、コーラス（合唱）、書道、絵画、写真、俳句・短歌など、創造的な活動が多数見られました。
。記述例：「図書館で借りた本を読むのが一番の楽しみです」「市民オーケストラに所属し、チェロを弾いています」「地域の絵画サークルに参加しています」
- **資格取得・スキルアップに関する活動**：仕事に直結する専門資格や、語学（英語、韓国語等）、パソコンスキル、簿記など、自己のスキルを高めることを目的とした学習も多く挙げられました。
。記述例：「キャリアアップのために、通信講座でファイナンシャルプランナーの資格取得を目指しています」「オンラインで英会話のレッスンを受けています」
- **地域活動・ボランティア**：自治会活動や子ども会の役員、地域の美化活動、高齢者施設でのボランティアなど、地域社会への貢献を目的とした活動も複数見られました。
。記述例：「自治会の役員として、地域のイベント企画に携わっています」「小学校の登下校時の見守りボランティアをしています」
- **その他**：園芸（家庭菜園）、料理、手芸、歴史研究、旅行など、個人々の多様な興味関心に基づく活動が挙げられました。

48

(2) 問2-2 活動形態（その他）について

問2-2で活動形態として「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、主に既存の選択肢を補足するような活動の「場所」や「状況」・「文脈」に関する記述が中心でした。主な傾向は以下の通りです。

- **活動場所・環境に関する補足**：選択肢にはない、より具体的な活動場所が挙げられました。「自宅」や「職場」、「野外」といった日常的な空間に加え、「カルスタすぎと」などの具体的な施設名や、「他市町村のスポーツ協会等が開催する大会」といった町外での活動も見られました。
。記述例：「自宅の庭で草花を育て成長を楽しむ。」「学校の公共施設を借りて活動している」「ダンスのできるお店」
- **組織・団体への所属や関与**：選択肢の「グループ・サークル」とは少し異なり、より公式な団体や地域組織への所属が示されました。
。記述例：「埼玉県生涯学習推進協会への入会及びセミナー参加」「スポーツの連盟に所属」「町内商工会入会、役員会等会議出席」
- **活動の関わり方**：誰と活動しているか、どのようなスタンスで関わっているかといった、活動の背景が補足されていました。
。記述例：「恋人や上司と」「個人で行っている。」「経験による学習」
- **具体的な活動形態の補足**：既存の選択肢の具体例、あるいはそれに含まれないユニークな形態が挙げられました。
。記述例：「テレビ」「ネット配信（フオロアー：6,700人）」「資格研修」「旅行・温泉」

49

(4) 問4. 活動のきっかけ (その他) について

問4で活動開始のきっかけとして「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、選択肢の主要なきっかけ（「新趣味・スキル習得」「知識・情報アップデート」「退職後の時間活用」「子の成長と学び直し」）を補完する、より個人的な背景や動機が挙げられました。主な傾向は以下の通りです。

- **健康上の配慮**：病气や手術後の体力回復、加齢による体力の衰え、運動不足やストレスの解消など、心身の健康状態をきっかけとする声が多数見られました。これは、選択肢には直接なかったものの、学習を始める上で重要な動機であることがうかがえます。
 - **記述例**：「病気をしたため。」「手術後の体力回復のため」「運動をしてストレス解消したいと思ったから」
- **人とのつながり・誘い**：友人・知人・近所の人からの誘いや、新たな友人作り、地域でのコミュニケーションを求めると、社会的なつながりがきっかけとなっているケースが多く見られました。
 - **記述例**：「近所の人に誘われて」「引っ越してばかりだったので友達を作ること」「地元の小さい時からの友人と一緒に活動出来るから」
- **過去からの継続・発展**：学生時代の部活動の延長や、幼いころから親しんできた活動の継続といった、新しいことへの挑戦というよりは、長年の経験を発展させたいという動機も特徴的です。
 - **記述例**：「中学校の部活動から今までずっと活動しています」「子供のころから花のある生活だったから」
- **自己変革・成長への願い**：「自分を変えたい」「人生を変えたい」「将来が不安」など、現状を乗り越え、より良い自分や未来を目指すという内面的な強い思いがきっかけとなっている声もありました。
- **その他**：「町の講座がきっかけ」といった行政からの働きかけや、「リスキリング、副業」といったより具体的なキャリア形成、「人の役に立ちたい」という貢献意欲など、多様なきっかけが挙げられました。

51

(3) 問3. 活動理由 (その他) について

問3で活動理由として「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、選択肢の主要な理由（「趣味・興味」「職業スキル」「社会参加」「健康維持」）を補完する、より個人的で多様な動機が挙げられました。主な傾向は以下の通りです。

- **自己充実・内面的な動機**：「面白いから」「好きだから」といった純粋な楽しみに加え、「自己成長のため」「もっと自分を学びたい」といった、より深い自己探求や内面的な充実を求める声が見られました。
 - **記述例**：「自分の興味のあることを深めていきたいから」「生きるモチベーションの維持」
- **心身のウェルビーイング**：「ボケ防止」や「将来への不安を少しでも軽減するため」といった、将来を見据えた心身の健康維持や精神的な安定を目的とする理由が挙げられました。
 - **記述例**：「運動を継続していることは体や心の健康につながり精神面でかなり役立っていると思います。」
- **社会的なつながり**：「人との関わりを広げるため」や「家族以外の人との触れ合い」など、新たな人間関係の構築や、地域社会とのつながりを求める動機も示されました。
 - **記述例**：「恋人がやっていたから」
- **その他の理由**：その他、「資格取得のため」といった具体的な目標や、「子供の感受性を豊かにする為」といった家族のための理由、「暇潰し」といった声もありました。

50

〔6〕問6 情報入手手段（その他）について

問6で情報入手手段として「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、選択肢の主要な情報源（新聞・TV・広報紙・ネット・友人知人など）を補充する、より個人的・限定的な情報ネットワークや、情報提供への意見などが挙げられました。主な傾向は以下の通りです。

- **職場・所属団体からの情報**：勤務先からの案内や、所属するスポーツ連盟・各種団体の会報誌やメーリングリストといった、特定のコミュニケーション内での情報入手が挙げられました。
○ **記述例**：「勤務先での案内など」「会報誌、所属する会からのメーリングリスト」
- **家族・身近な人からの情報**：選択肢の「友人・知人」よりさらに身近な、「家族」や「主人」からの勧めも情報源となっています。
○ **記述例**：「主人のすすめ」「家族」
- **専門的な情報源**：「本」や「専門書」を情報源として挙げる声や、特定の活動においては「専門店へ足を運ぶ」といった、より能動的な情報収集も見られました。
- **情報提供への意見・要望**：「ボランティア活動においては活動したい知らない人が多く『どこで見つけたの?』と聞かれます。広報紙でどんどん知らせてほしい。」といった、現状の情報提供への課題や改善要望が具体的なエピソードとともに記述されていました。
- **情報入手の障壁**：「横になっている時間が長くなって」「生活時間帯が違う」など、個人の状況により既存の情報源にアクセスしにくいという声もありました。
- **記載なし・入力なし**：「その他」を選択したものの、具体的な記述がない回答が多数を占めました。

〔5〕問5 活動していない理由（その他）について

問5で活動していない理由として「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、選択肢の主要な理由（「多忙・時間無」「興味無」など）の背景にある、より深刻な要因や具体的な状況が明らかになりました。主な傾向は以下の通りです。

- **健康上の理由・身体的な制約**：最も多く見られたのが、病気、体調不良、加齢や障害に伴う身体的な機能低下など、健康上の理由で活動が難しいという声です。
○ **記述例**：「病気を患い入退院の繰り返し」「ひざ、腰、座骨神経症などの強い痛みのため、歩行や身体を動かすことが困難。」「足が義足の為外出はむづかしい」
- **高齢による限界**：健康問題と関連しますが、特に「高齢」であることを直接の理由として挙げる記述も複数ありました。
○ **記述例**：「年齢的に無理」「今98才なので認知症もあり、日常生活が大変です」
- **機会や内容のミスマッチ**：単に機会がないというより、自分に合うものが見えない、というニコアンスの意見です。
○ **記述例**：「やってみたいと思うのが見当たらない」「広報その他で自分に合っている活動や情報が少ない」
- **時間的制約の具体化**：選択肢にもあった「多忙」について、より具体的な状況が示されました。
○ **記述例**：「会社員なので活動時（日付・時間）が合わない、取れない。」「水泳教室に通っていたことがありましたが、仕事を始めるようになってから活動の時間がとれなくなりました。」
- **その他の理由・意見**：上記以外にも、「介護に行っている」といった家庭の事情、「お金がかかる」という経済的理由、「生涯学習を知らなかった」という認知者の課題、さらには「杉戸町のまいにち体操教室に参加していますので十分です」といった、特定の活動で満足しているというポジティブな非参加理由も見られました。障がいを持つご家族の参加に関する保護者の方からの切実な問いかけも寄せられています。

〔9〕問9 今後の活動意向（その他）について

問9で今後の活動意向として「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、具体的な活動内容よりも、参加への課題感や意見、あるいは「特になし」といった記述が多数を占めました。主な傾向は以下の通りです。

- **具体的な活動意向なし・未定**: 全体の大部分を占めるのが「特になし」「未定」あるいは実質的な無記入でした。学習成果を地域活動等に活かすという具体的なイメージを持っていない層が一定数いることを示しています。
○ **記述例**: 「特になし」「未定」「参加できない」「生涯学習自体を理解できてないので参加可否などな回答が難しいです。」
- **スキルや自信の不足**: 自身の知識や技能が、他者のために活かせるほどのレベルではないという、自信のなさを理由に参加に踏み出せない声がありました。
○ **記述例**: 「自分の知識や技能は、地域や社会で活かせるほどのレベルではないと感じている。」「私の技術がまたまたなので」「今は、自己満足の段階」
- **参加への具体的な障壁**: 選択肢にあった「時間的制約」以外にも、健康上の理由や家庭の事情（子育て、仕事との両立）が活動参加を難しくしている実態がうかがえます。
○ **記述例**: 「体力的にむりな活動があるが、体力で数時間の活動にかぎる」「持病あり、無理できない身体」「現状、子育てがあるため難しい。」
- **現状の機会への意見・要望**: 既存の活動や町の仕組みに対する具体的な意見や、参加意欲を高めるための提案も寄せられました。
○ **記述例**: 「参加したい気持ちはあるが、おじさんおばさんばかりだと戸惑う。町主催の作品展があったとしても知名度が低いのでわかららない。例えば、杉戸町長賞をつくり受賞作品は、一年間町役場に飾ってもらえるとやる気が出る。そしたら出ます。」「埼玉県美術家協会員です。（中略）なぜ声がかからないのか？～今いる人を使わないのはもったいない～」

- **その他の活動への関心**: 少数ながら、選択肢にはない具体的な活動への関心も示されました。
○ **記述例**: 「老人ホームなどの訪問」「杉戸町自然公園の立ち上げ、ネイチャーガイド」「高齢者の生活支援活動」

〔8〕問8 学習成果の活用（その他）について

問8で学習成果の活用方法として「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねましたが、記述は少数でした。その中で見られた主な傾向は以下の通りです。

- **具体的な活用事例**: 選択肢の内容と関連しつつも、より個人的な生活状況に密着した活用方法が示されました。
○ **記述例**: 「クラブチームを運営中」「父の介護時。体力がないと！体のどこかを痛めないようにと運動・筋トレをはじめて1年たちました。」「読書や同好会への参加は書をこくして10年以上も経過した自分には寂しさを紛らす事にも有効」
- **スキル習得途上の状況**: まだ活用できる段階に至っていないという声もありました。
○ **記述例**: 「身につけてない」「まだ勉強中なので、生かすほどの知識がない」
- **活用への課題感**: 活用したい意思はあるものの、外部の環境に課題を感じている意見も見られました。
○ **記述例**: 「気持ちよく活かす機会が無い、ネット・AI知識有っても受け入れたららない、変えようと言う気持ちが無い」

(111) 問111 町が力を入れるべきこと（その他）について

問111で町が力を入れていくべきこととして「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、選抜隊の項目（施設増設、既存施設改修など）以外にも、極めて多様な意見や具体的な提案が数多く寄せられました。主な傾向は以下の通りです。

- **情報提供・広報・周知の抜本的改善**：最も多くの記述が見られたテーマです。「どのような活動があるか知らない」という声が多く、SNSの活用やアプリ型の情報提供など、特に若年層に届くような広報活動の強化を求める意見が際立っていました。
 - **記述例**：「若い人が気楽に利用できるようなSNSを活用し、広報活動に努めていくべき。」「YouTube等インターネット動画配信等に力を入れてみてはいかがでしょうか」「アナウンス（宣伝）しないと存在すら認知されない」
- **アクセシビリティの向上（時間・場所・交通手段）**：学習機会への参加しやすさに関する要望です。働く世代からは「平日昼間なんて無理！」といった時間的な制約への配慮を求める声や、また高齢者層からは「町内巡回バスの本数を増やしてほしい」といった交通手段の確保を求める声がありました。
 - **記述例**：「夜遅くまで使用できる環境を整備してほしい。」「働いている人も参加しやすい環境提供。」「車を使わずとも行ける施設があるといいネ！ もっと「すきよん号」を充実させてほしい」
- **講座・プログラム内容の充実と多様化**：学習内容そのものへの期待や要望です。魅力的な講師の招聘や、若者向けの講座、オンラインでの受講環境の整備など、ソフト面の充実を求める意見が見られました。
 - **記述例**：「多様な魅力ある講師を頼む。宣伝をする。」「若い世代に関心がある内容の講座、zoomにて利用できる環境」「学習するという気持ちの余裕が持てるような環境作り」
- **施設に関する具体的な要望・意見**：既存施設の有効活用に関する提案や、特定の新しい施設への期待が寄せられました。
 - **記述例**：「空き教室はいろいろなお店作りができ安いで賃金で手が出しやすくてオーナーになり町の方に楽しんでもらえたらいいと思います。」「健康の為にボールをつくってほしい。」「ジム等の運動をする施設の建設」
- **ソフト面・運営への期待**：施設・設備といったハード面だけでなく、運営や人材に関する要望です。活動費用の補助や、学習成果を仕事に繋げられるような仕組みづくりを求める声がありました。
 - **記述例**：「活動費用の補助金を出す。スポーツジム等健康に関する費用の補助。」「資格を取ってボランティアではなく学習活動の仕事があるようにしてほしい。」

(110) 問110 関心のある学習テーマ（その他）について

問110で関心のある学習テーマとして「その他」と回答した方に、具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、具体的な学習テーマの提示は少数で、多くは「特にし」や無記入、あるいは町政への意見や個人的な関心事の表明といった内容でした。主な傾向は以下の通りです。

- **具体的な「その他」の学習テーマ**：選抜隊以外で、具体的な学習テーマとして挙げられたものです。
 - **記述例**：「言語学習」「科学に関すること。」「介護について」「子どもの健康問題」「町内の土木、道路、水道インフラについて」「確定申告等の税金関連。」
- **町政への意見・要望**：特定の学習テーマというより、町に対する具体的な要望や強い意見として表明されているものが目立ちました。
 - **記述例**：「治安に全力を注いでほしい。」「『総合病院』を建設してほしい」「マナーの悪さ、良度の低さ目立つので、教育の底上げが必要と感ずる。」
- **個人的な状況や不安**：個人の状況に関連する関心事です。
 - **記述例**：「老後の不安」
- **特になし・無記入**：「その他」として具体的なテーマがない、あるいは「なし」「記載なし」「入力なし」と記入されたり、何も記入されなかったりしたケースが多数を占めました。

5.用語解説

【あ行】

ICT（情報通信技術）

アイシーティー(Information and Communication Technology)の略。パソコンやスマートフォン、インターネット、SNSといった情報通信技術の総称です。これらの技術を活用することで、いつでもどこでも情報を得たり、人と繋がったりすることができます。

ウェルビーイング (Well-being)

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものです。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念です。生涯学習を通じて、生きがいや人とのつながりを感じ、心豊かに暮らすことは、ウェルビーイングの向上に繋がります。

SDGs（持続可能な開発目標）

エスディーゼーズ(Sustainable Development Goals)の略。2015年に国連で採択された、2030年までに達成すべき世界共通の17の目標です。目標4に「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」と掲げられている通り、生涯学習の推進はSDGsの達成に不可欠な要素とされています。

NPO（特定非営利活動法人）

エヌピーオー(Non-Profit Organization)の略。利益を目的とせず、福祉、教育、まちづくり、環境保全といった様々な分野で社会的な課題の解決に取り組む、市民が主体となった団体のことです。本計画において、町と協働する重要なパートナーです。

【か行】

GIGA スクール構想

ギガ(Global and Innovation Gateway for All)スクール構想の略。全国の小中学校で、児童生徒1人1台の学習者用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、誰一人取り残すことのない教育を実現するための国の政策です。

共生社会

年齢、性別、国籍、文化、障がいの有無など、一人ひとりの違いを認め合い、誰もが尊重され、支え合いながら、共にいきいきと暮らしていける社会のことです。

KPI（重要業績評価指標）

ケーピーアイ(Key Performance Indicator)の略。計画や事業が、目標に向かって順調に進んでいるかを客観的に測定・評価するための、具体的な数値目標のことです。いわば「計画の達成度を測るものさし」です。

【さ行】

指定管理者制度

町が設置するホール、スポーツ施設、福祉施設といった様々な公の施設について、民間事業者やNPO法人などが、町に代わって管理運営を行う制度です。民間のノウハウや活力を活用し、利用者へのサービス向上や、効率的な施設運営を目指します。

サードプレイス

自宅(第1の居場所=ファーストプレイス)でも、職場や学校(第2の居場所=セカンドプレイス)でもない、自分らしく過ごせる「第3の居場所」のこと。公民館や図書館、カフェなど、人々が気軽に集い、交流できる場所を指します。

【は行】

PDCA サイクル

ピーディーシーエーサイクルの略。計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)という4つの段階を繰り返すことで、継続的に事業の質を高めていくための手法です。

放課後子供教室

主に小学校の余裕教室などを活用し、地域の大人たちの参画を得て、子どもたちに放課後の安全・安心な居場所を提供するとともに、学習支援やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などを行う事業です。

【ま行】

学びの好循環

個人の学びの成果を、地域活動や社会貢献へ繋げ、それが新たな学びの意欲や地域の活性化を生み出していくという、本計画が目指す姿の核となる概念です。

マッチング支援

「学びたい人・教えたい人」と、その知識や技能を必要とする「場(学校、地域団体、ボランティア活動など)」を、適切に結びつけるための支援のことです。

モニタリング

計画や事業が、予定通りに進んでいるか、また、どのような効果が出ているかを、継続的に観察し、確認・検証することです。

【ら行】

リカレント教育

学校教育を終えて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで、再び教育機関に戻って学び直すことができる教育システムのことです。仕事に必要な専門知識や技術を更新するために行われることが多いです。

レファレンス機能

主に図書館が持つ機能の一つで、利用者が何かを調べたい時に、必要な資料や情報を探し出す手助けをしたり、質問に答えたりするサービスのことです。「調べもの相談」とも言われます。

杉戸町生涯学習推進計画

発行日：令和8年3月

発行：杉戸町 / 杉戸町教育委員会

〒345-8502 杉戸町清地2丁目9番29号

TEL (0480)33-1111 (代)